
月刊
FALCOM MAGAZINE
Vol.37
啄木鳥しんき
イラストメッセージ
ファルコムjdk バンド
ドラマー・オカジの
人生半キャラずらし
ティオの
ファルコムラジオ
めんどくさいです…
でもがんばりますの
舞台裏
jdkバンド
ボーカル・コテカナの
コテ放題♥
ファルコムニュース
Falcom Fanart Collection
絶好調で放送中！
今月も『ファル学』大特集！
アニメ版最新キャストコメント一挙掲載
マキアス君……
強く生きろ
『みんな集まれ！ ファルコム学園』
アニメで放送された部分を
原作漫画で振り返る!?
『よりぬき！ ファルコム学園』



FALCOM MAGAZINE

CONTENTS

ハチャメチャ学園生活に作者も大興奮!?

アニメ『みんな集まれ！ファルコム学園』はクセになると話題のＯＰと共に大人気放映中！「あの」北米版アドルの声を演じた草尾毅さんなど豪華キャストコメントに加え、アフレコに駆けつけた作者・新久保先生からのコメントも大公開だ！













●スタッフ
原案：日本ファルコム株式会社
原作：新久保だいすけ
制作：株式会社キャラアニ、株式会社ダックスプロダクション
脚本：山下憲一
監督：ぴっぷや
キャラデザ・作画監督：青葉みずき

●キャスト
ダルク・ファクト興津和幸　ラッピィ…進藤尚美
アドル・クリスティン…梶裕貴　ティオ…水橋かおり
エステル・ブライト…神田朱未　ヨシュア・ブライト…斎賀みつき

公式サイト ▶ http://www.fal-gaku.com/

キャストコメント続々到着!!

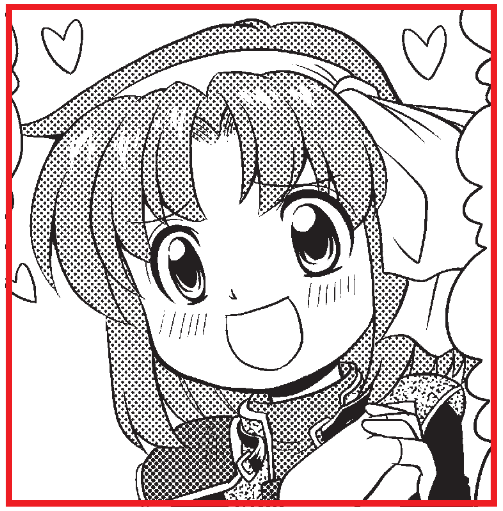


北米版アドル役 ▶ 草尾毅さん

■収録を終えた感想をお願いします。
『ファルコム学園』でアドルがどうなってるだろうなっていうところとか、ちょっと前から梶さんがアドルを演じられていますので差別化をどうしようかなとか色々考えていました。でも実際の収録では作品やその場の雰囲気に乗っかって楽しく演じさせていただきました！何年かぶりにアドルを演じられて大変嬉しく幸せに思いました。

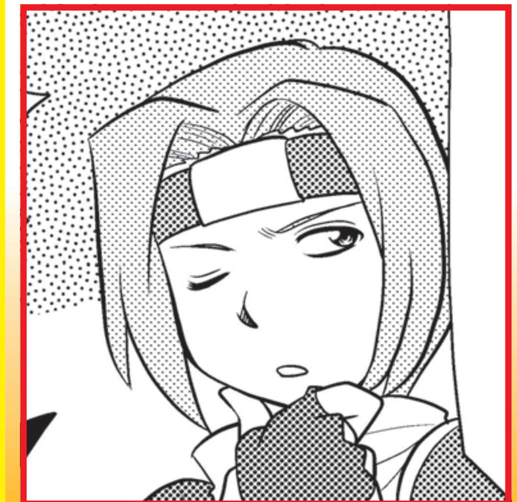
■アニメを楽しみに待っているみなさんへメッセージをお願いします。
シリアスな作品をデフォルメすると毎回色んな方の色んな意見がつきものだと思うのですが、この作品にどんなオチがつくのか、お話がどんな展開になるかとても興味があるので応援してくださっている皆さんと一緒に見守っていきたいと思います。

アネラス役 ▶ 大河内雅子さん



■収録を終えた感想をお願いします。
アネラスは、ゲームの時は戦闘ボイス中心だったので、わりと凛々しいイメージの中に、ちょっと可愛いところもあるっていうイメージだったのですが、アニメではかなりテンションが高くてとても新鮮でした。

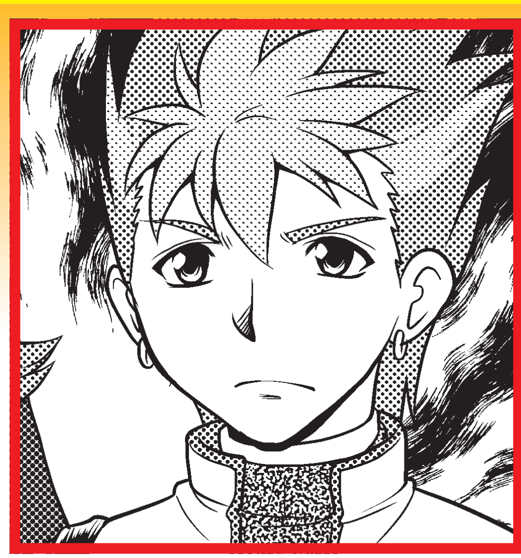
■アニメを楽しみに待っているみなさんへメッセージをお願いします。
皆さま、ご無沙汰しておりました（笑）。久しぶりにアネラスを演じることができてとてもうれしかったので、彼女がしゃべっている姿をぜひ観ていただければと思います。



クルツ役 ▶ 金子英彦さん

■収録を終えた感想をお願いします。
クルツを収録したのは『空』の戦闘ボイスだけで、ドラマといえば、以前ファルコムラジオに呼んでいただいた際の小芝居だけでしたので、改めてキャラを見つめ直した収録でした。

■アニメを楽しみに待っているみなさんへメッセージをお願いします。
いつもどおり、普段どおりのクルツさんです（笑）。そんなクルツさんを楽しんでいただければと思います。よろしくお願いします。



ケビン役 ▶ 中尾良平さん

■収録を終えた感想をお願いします。

『碧えぼ』で久々にケビンを演じさせていただいたのですが、今回のアニメはコメディだったので、かなりキャラが弾けた感じでした（笑）。でも僕はコメディが大好きなので、楽しく演じさせていただきました。

■アニメを楽しみに待っているみなさんへメッセージをお願いします。

ファルコム学園を楽しみにしているみなさん。本当に楽しい作品なので、笑ってスカッとした気分になって、いい夢を見てください（笑）。

リース役 ▶ 桑島法子さん

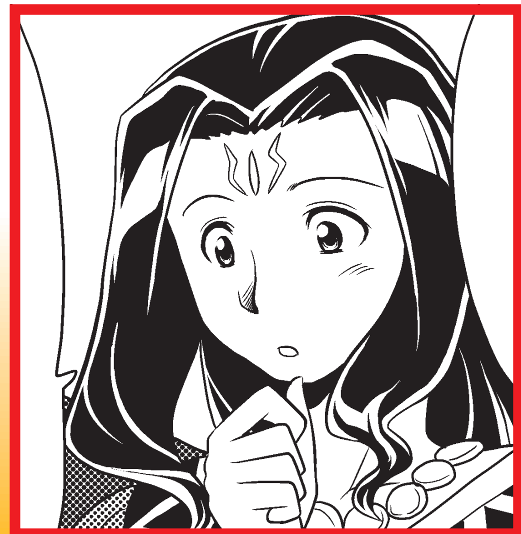


■収録を終えた感想をお願いします。

デフォルメされていて、シリアスではないリースということだったのですが、最初にケビン役の中尾（良平）さんの声を聴いて、「あっ、こういう感じでいいんだ！」って（笑）。そのノリに乗っかって演じることができたので、非常にスムースに収録ができました。

■アニメを楽しみに待っているみなさんへメッセージをお願いします。

アニメになった『ファルコム学園』にリースも仲間に入れていただけて、うれしいやらホッとするやら……出番があって良かったです（笑）。登場は後半の方になるかと思いますが、ギュギュっとリースらしさがつまったお話になっていますので、楽しんでいただけたらうれしいです。



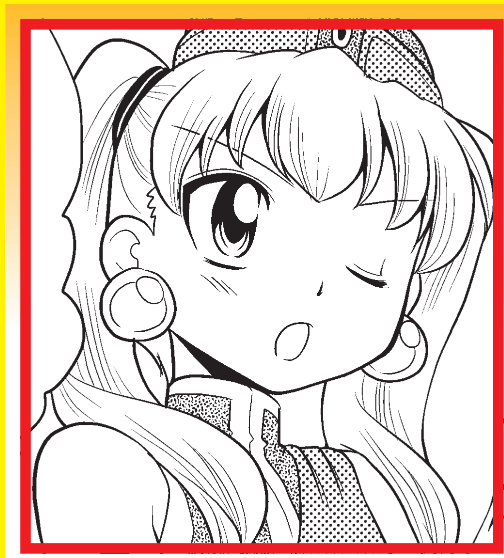
エルディール役 ▶ 田中秀幸さん

■収録を終えた感想をお願いします。

初めてこの番組に参加させていただいたのですけど、いや、面白い番組ですね（笑）。久しぶりのエルディールだったのですが、とても楽しく演じさせていただきました。

■アニメを楽しみに待っているみなさんへメッセージをお願いします。

今回もとても面白いお話ができあがったと思います。ぜひご覧になってください。



アイシャ役 ▶ 三上枝織さん

■収録を終えた感想をお願いします。

アイシャを演じさせていただいたのが、私がデビューして１年ぐらいしか経っていない、５年前以来でしたので、再び同じキャラを演じさせていただくのは、すごくうれしくも、むずがゆい気持ちでした。出番があって良かったです(笑)。

■アニメを楽しみに待っているみなさんへメッセージをお願いします。

豪華なキャラクターがたくさん出ているので、ゲームとはまた違った一面が見られると思います。そこがやはり見所だと思いますので、ぜひたくさんの方に観ていただけるとうれしいです。

みっしぃ役 ▶ 小寺可南子さん



■収録を終えた感想をお願いします。

ドラマCDとかでアフレコ自体はちょこちょことやらせてもらっていたのですが、今回はアニメということで初めての体験だらけでした。豪華な声優の皆さまに囲まれて贅沢な時間を過ごさせていただきました。一ファンのような気持ちで、毎回収録に来るのが楽しみでした！

■アニメを楽しみに待っているみなさんへメッセージをお願いします。

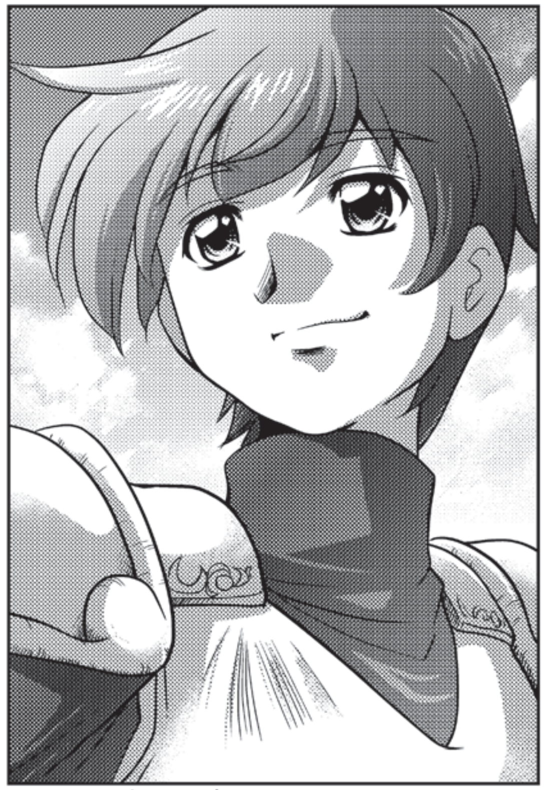
２分という短い尺なのに、こんなにも吸引力の強いアニメって今までになかったと思います。Twitterとかでみんなで盛り上がったりできましたし（笑）。次は５分アニメとか、もうちょっと長編でできたらと思います。これからもゲームともども、応援してもらえたらうれしいです。ゴーファイ！

←アニメ第５～８話の原作となった『ファルコム学園』を

特別再掲載！ アニメ版と比べてみる？

アニメも漫画も
めんどくさいけど
要チェックです！





よりぬき! ファルコム学園

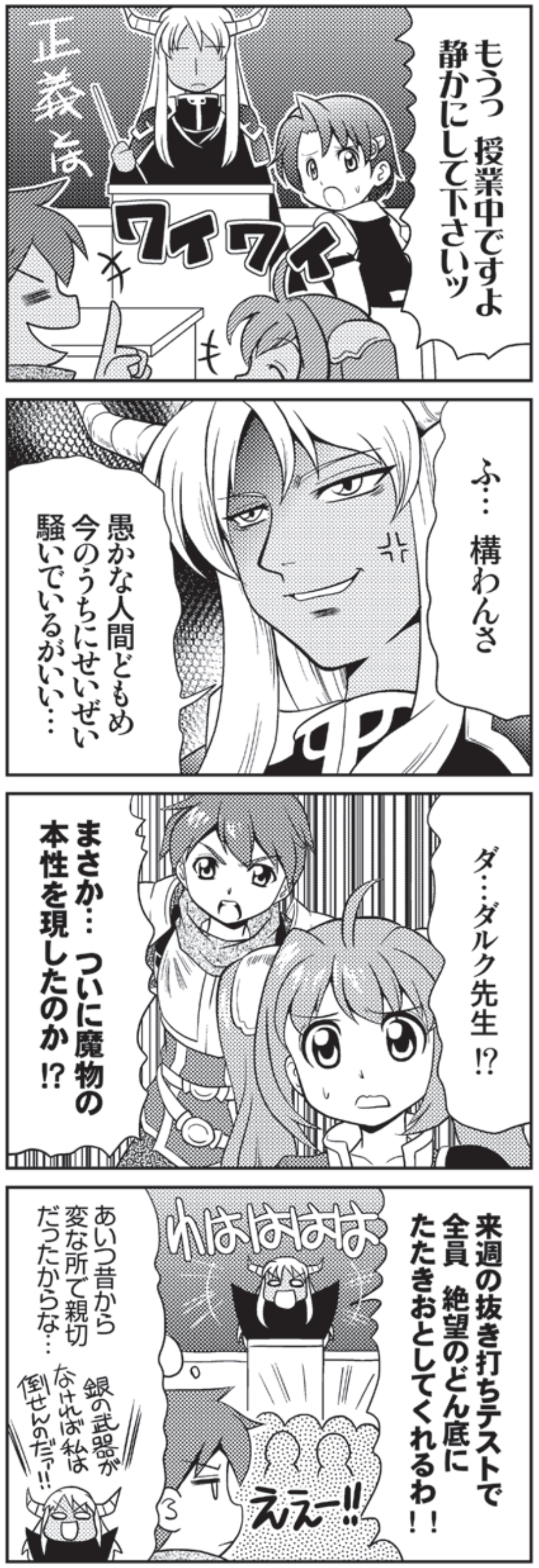
★新久保先生コメント アニメ第5話

ついにダルク先生の授業が（原作どおりの大歓迎を受けつつ）始まりました！ ダルク先生の財布を拾って（？）着服したり、原作以上にアドルがひどいキャラになってますね！

★新久保先生コメント アニメ第6話

まさかのおたよりコーナー！これ実は当日行われていた選挙の影響で 放映時間が大幅にズレてしまうことを見越して急遽作られた特別編だったのです。
当初この回は僕とみっしぃ役の小寺さんで実写トークをするという予定でした。マジですかー！と困惑しつつもある程度腹をくくった矢先に担当さんから連絡があって 「あ、実は特別編作ることになったので出なくてOKですよー」と言われほっとしたようなガッカリしたような（笑）

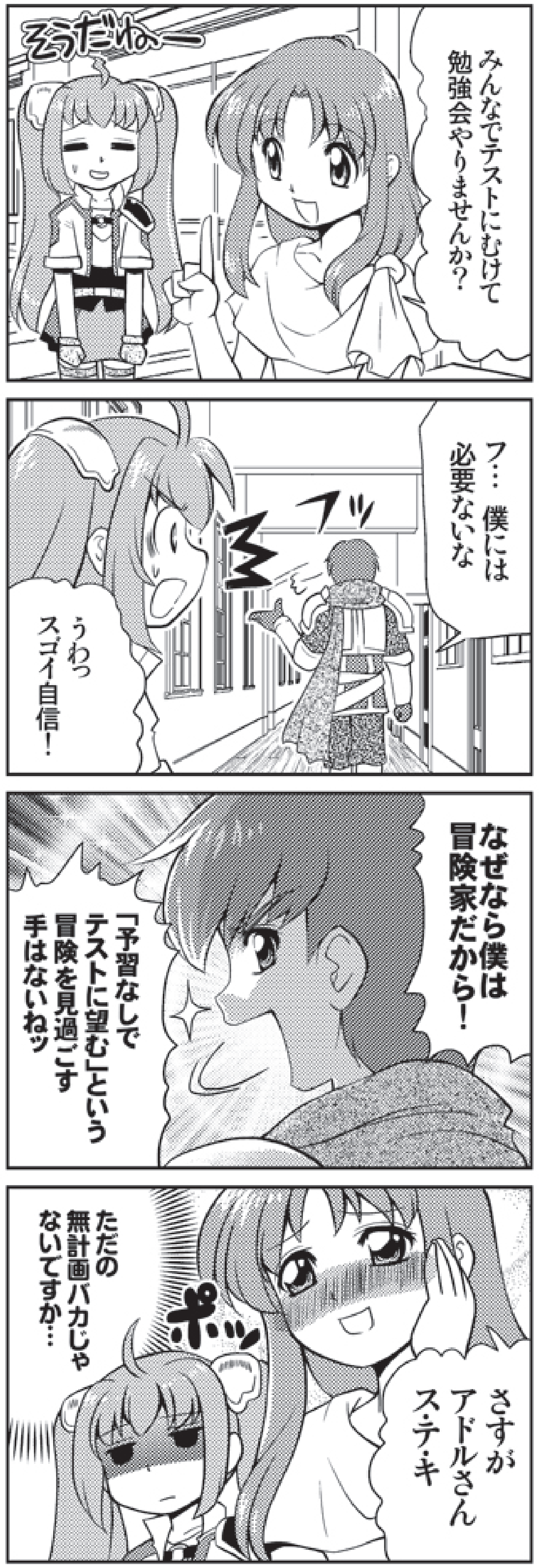
親切な魔物



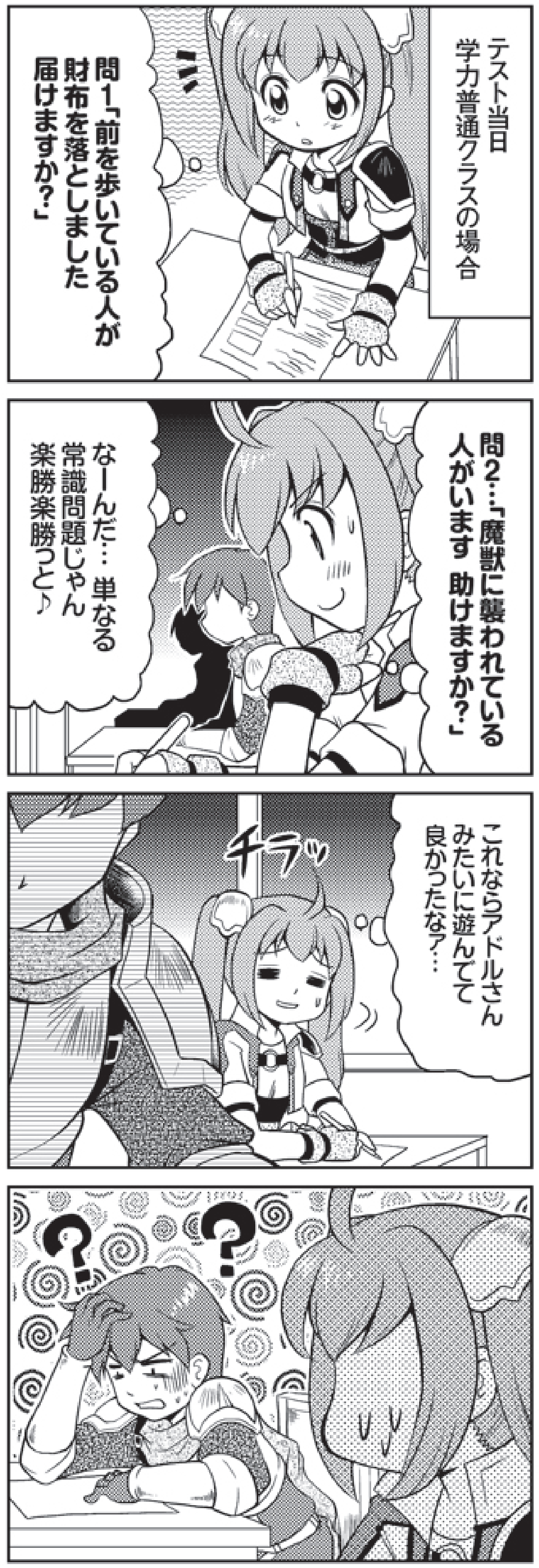
完璧なる作戦



冒険



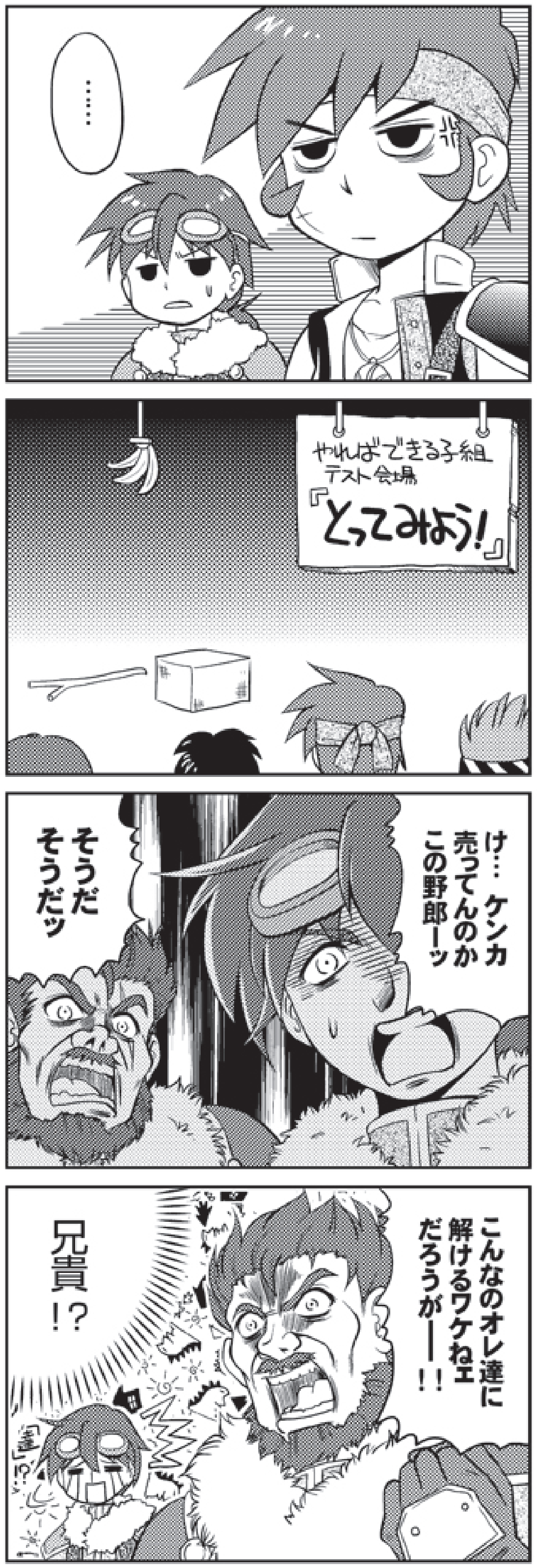
後悔



めんどくさい人達



サルバナナ



超難問




★第6話でお披露目となった『ファルコム学園ラジオ』、こんなゲストが来る日も……!?
ティオと――
ダルク先生の～
ファルコム学園ラジオ～～～!!
よりぬき!
ファルコム学園
新久保だいすけ
超～～～ウルトラめんどくさいです
できることなら今すぐ帰って寝たいです…
本気で心の底からめんどくさそうだ――!?
ぷしゅうううう


えーこの番組はザナドゥに召喚された皆様の相互理解を深めるため……
エリカ・ラッセル博士のご協力のもと開発された《導力ラジオ》にてお送りする情報バラエティ番組です と
で 具体的に何をするんです?
帰りたい…
えーと とりあえず皆さんからのお便りを読んだりゲストを招いてお話をする予定だ!
では早速ご紹介しましょう
記念すべき第1回のゲストは…
クロスベル通信社の若きカメラマンレインズ君と!
天才スーパーハッカーヨナ君だァァ!!
どうやらボクを呼んでいるようだね…!
フフフフ
「ゲス」ではない「ゲスト」だ! 座っていろ!!
ゆらり



さて次は 皆さんからの お便りのコーナー
呼んどいて スルーだと!?
当たり前ですッ こんな華のない連中の 話聞いて誰が 喜ぶんですかッ
いちいち ごもっともな だけに腹立つな ちくしょー!!
しかし困ったな 今から誰か呼ぶ わけにも…
パァァァ
ドオオオ
うわっ!?
オォォン
な 何だ この光は!?
理の力が 発動してます
今まさに誰かが 召喚されようと している!!
……ん
ん…? んんん～?
え なに何? どこなんココ 何であたし こんな所におるん?
ウホッ 美少女発見!
!?
いやぁぁぁぁ
ウハハハハ
ええやないか ええやないか
変な訛りの 姉ちゃんやな どこ出身や?
ケビンがゆーな
この声…
まさか… カリン姉さん?
確かに似た声だが… 口調も性格もカリンとは 全然違うぞ?
ウホホホ肌スベスベや! スベスベやで!!
ひぃぃぃぃぃぃぃぃ
それってやっぱり 理の影響ってヤツ?
いや 姉さんは 元からこんな だったよ
は!?

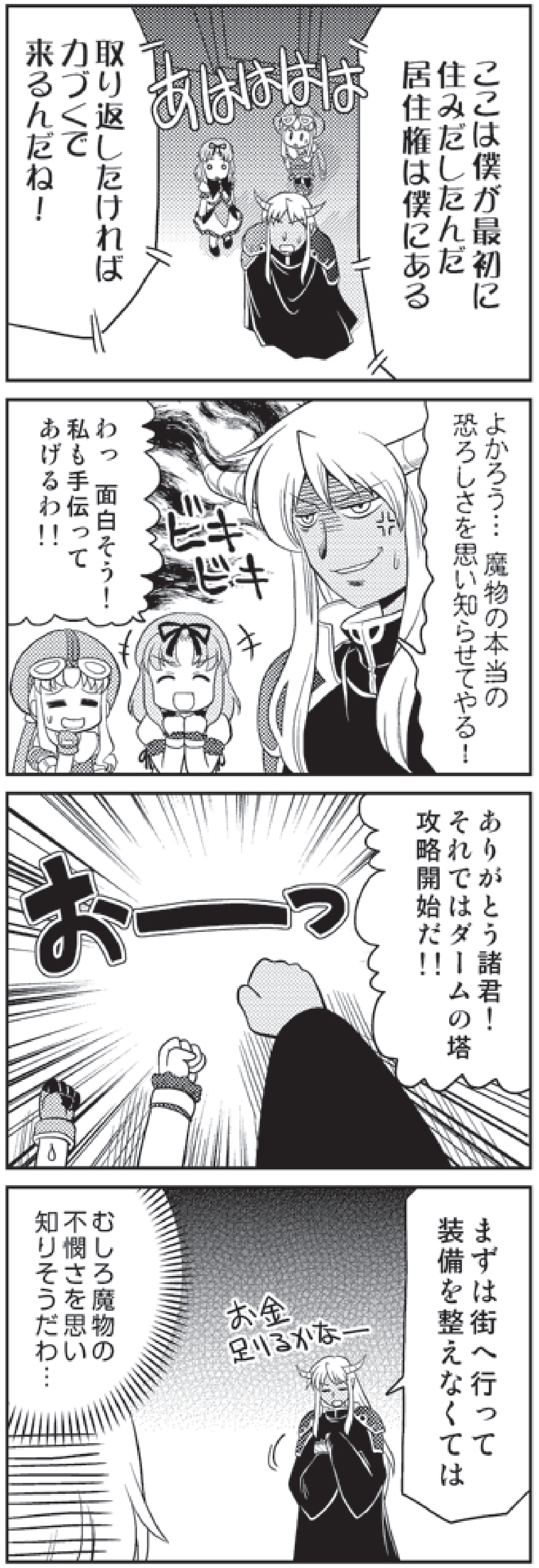

姉さんってばレーヴェの前では別人みたいにおとなしくてさ ボクは毎日笑いをこらえるのに必死だったよ…
やめてくださいぃぃ
よっしゃまかしとき！
ペロペロ ペロペロ ペロペロペロペロ いや、なめてじゃなくてやめてぇぇ
ウソだ！ウソだ!! カリンはこんな発情期の○○○みたいな女の子じゃないもんッ!!
現実を見ましょうレーヴェさん！オトナの女は男の知らない顔をいくつも持っているものなんです!!
あーー！あーー!!
あーーーー!!!
そうそう
らじおのでぃーじぇー？
よーわからんけどここでおしゃべりするだけでええの？
よし！これで「華」は確保できたな
では改めてタイトルコール！
ティオと！
カリンの!!
ファルコム学園ラジオ〜〜♪
当然のようにタイトルから誰か外されてるウウ——!?


ではさっそくふつおたのコーナー！
「ふつおた」？
皆さんからいただいたふつうのお便りをご紹介するコーナーです
雑用係に降格
コレ読んだらいいんかな？
えーとなになに…「私には妹が一人いるのですが甘えん坊なくせに生意気で困っています…」
あたしにも弟おるけど年下なんてそんなもんでしょー むしろ甘えさせてあげるんがお兄ちゃんの仕事と違う？
どーん！となっ
おお ナイスなコメントですカリンさん！
カリンさん 名前 名前
あ コレね 送ってくれたのはザナドゥ在住のチェスター・ストダートさん！
…うわゴメン！「匿名希望」って書いてあったわ!!
あらあら あらあら あらあら

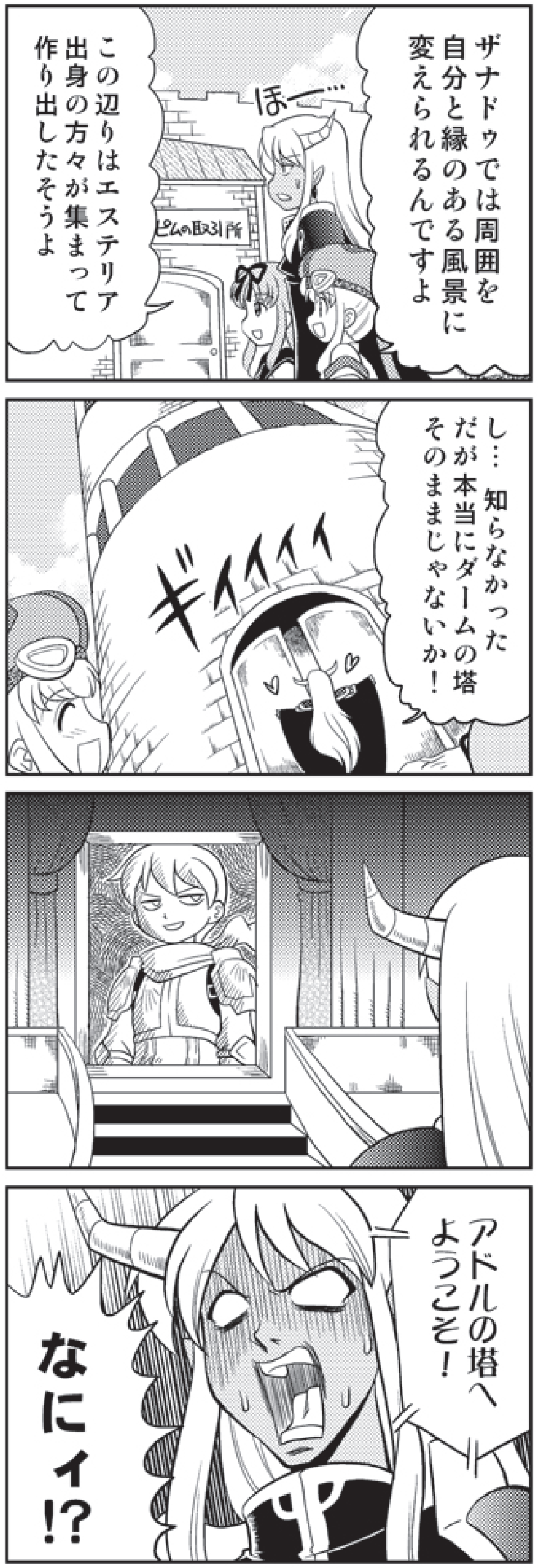

まぁええか♪
いいんですか!?
ブッ
な 何です 放送システムが止まった!?
ふ…ふふふ…ふははははッ
ボクが天才スーパーハッカーというのを忘れていたみたいだな!
このスタジオは我々が乗っとらせてもらいましたよ——!!
よい子はマネしちゃいけないぞ
SYSTEM IS MOROTADE
さぁそれでは「ダルク先生の飛び出せ!青春ラジオ」始まるよ~!!
何言ってるんだ「ヨナ様のミステリーピザクッキング」で決まりだぜ!!
いやいや「レインズ君のほんわか大胸筋ラジオ~ばんばん鍛えてこ!」ですよ!!
ティオ・フィナーレ
ギョ
あんまりゃ~
ズ


二人共 今日はお疲れ様でした 次もよろしくお願いしますね
このくらいならお安いご用や!
めんどくさいです…
ティオちゃんラジオ面白かったよ!
おや ヨシュアさんにエステルさん…レーヴェさんまで
ホラやっぱりもう一人はカリン姉さんだ
まぁレーヴェ
まさかこんな所で会えるなんて!
うわぁぁあああッ ウソだっ何もかも幻だぁぁぁあッ!!
あら? どうして逃げるの 待ってよレーヴェ♪
ウフフ~
べ別人のように…
この後ザナドゥ中に本性を公開されているとは気付かぬまま「ティオとカリンのファルコム学園ラジオ」は空前の人気番組となってゆくのだがそれはまた別のお話
Fin

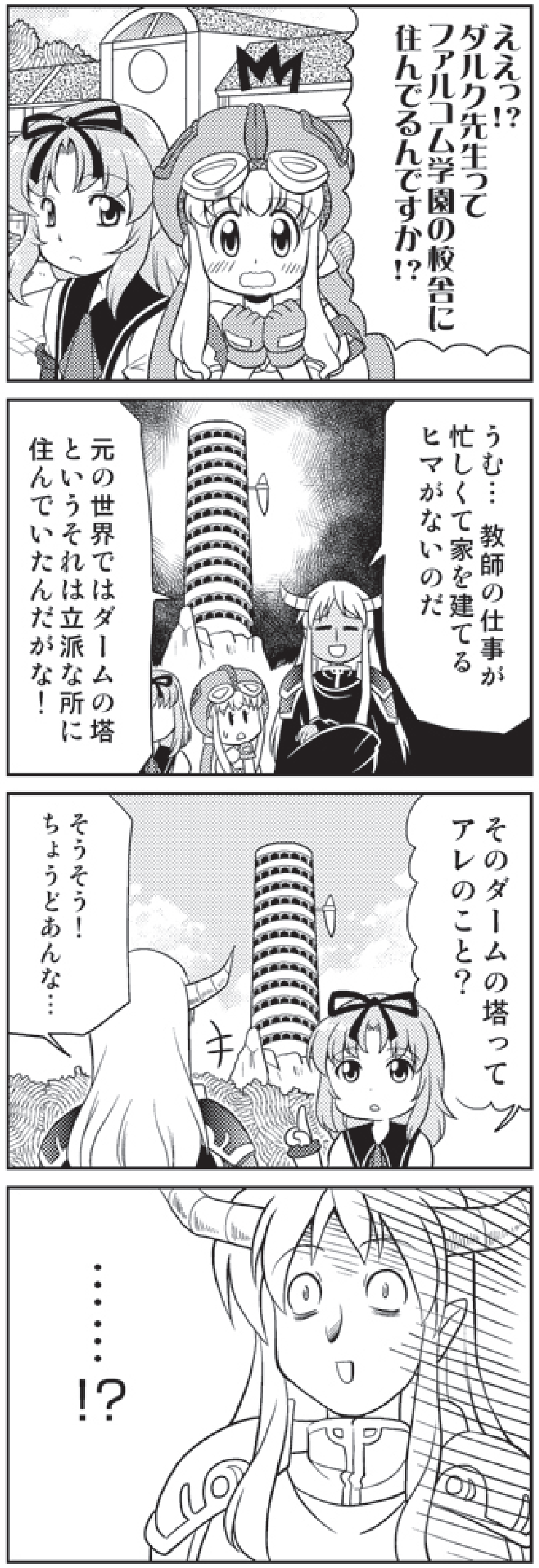
準備



○○○の塔



ダルク先生の住宅事情





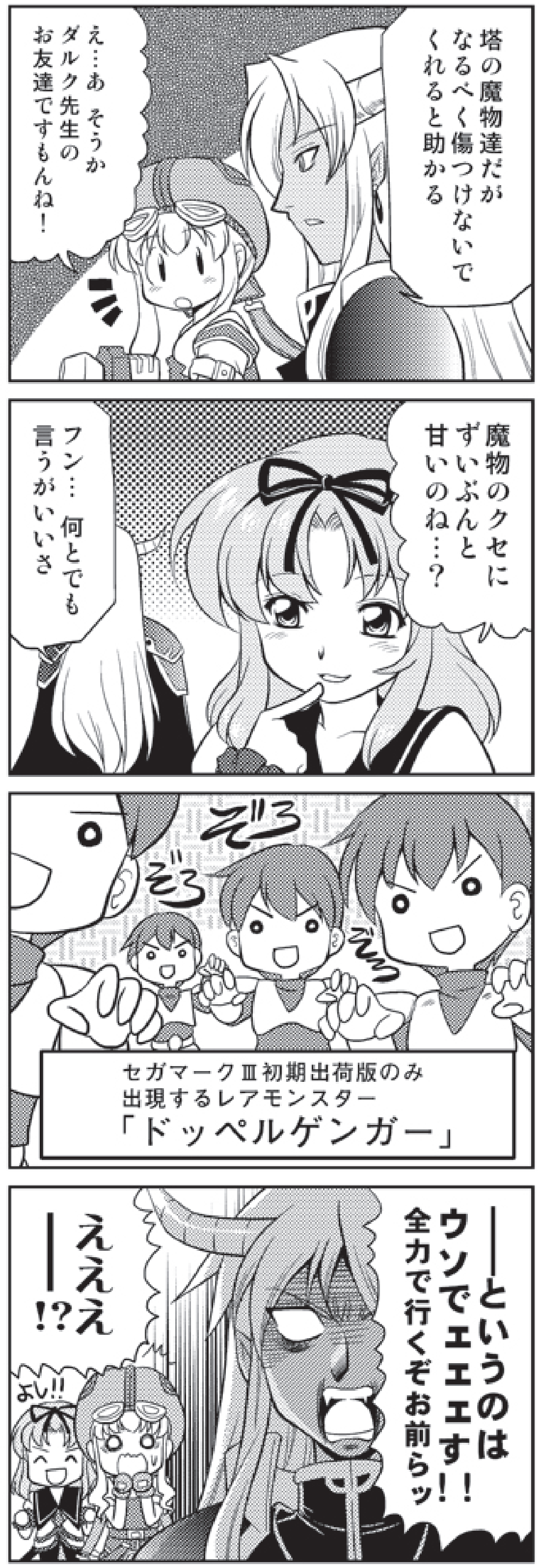
よりぬき！ファルコム学園

★新久保先生コメント アニメ第7話

まさかの、まさかの先代アドル役、草尾毅さんの登場！ドッペルゲンガー役として夢の競演が実現です!! 僕は昔から草尾さんの大ファンで、漫画家としてデビューしたときから「いつか必ず自分の作品のキャラに草尾さんの声をあててもらうんだ！」そんな思いだけは片時も忘れずがんばってきました。その夢がまさかここで実現するとは…！ アフレコのときもギャグアニメなのに一人泣きそうになっていたのを覚えてます。

ちなみにあの「アドルアドルアドル」という掛け声は草尾さんによるアドリブです（笑）

魔物同士



空気よめる子 よまない子

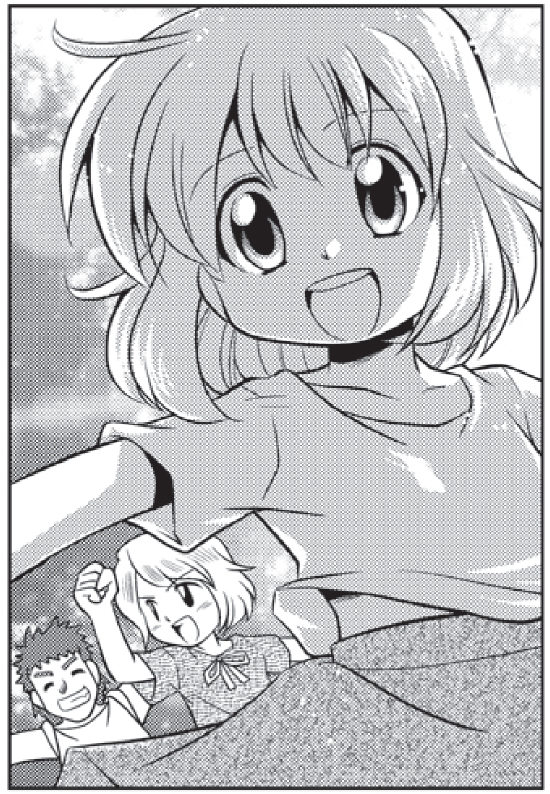


お茶会



アドル砲





よりぬき！

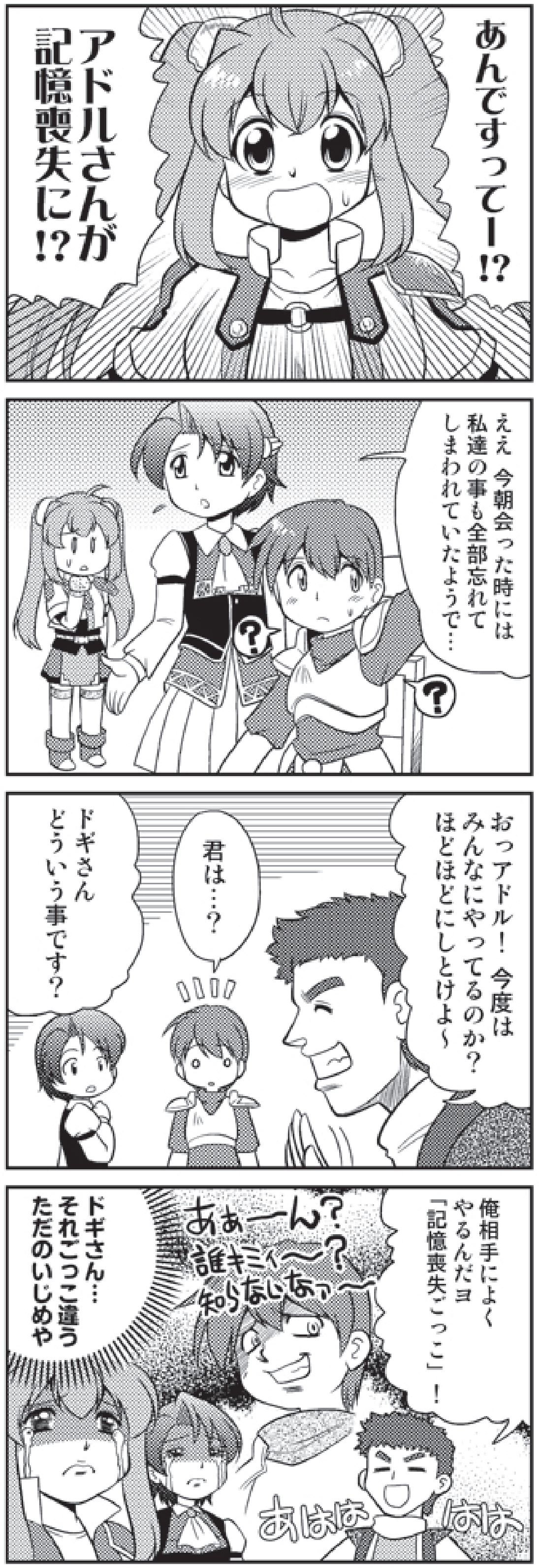
ファルコム学園

★新久保先生コメント アニメ第8話

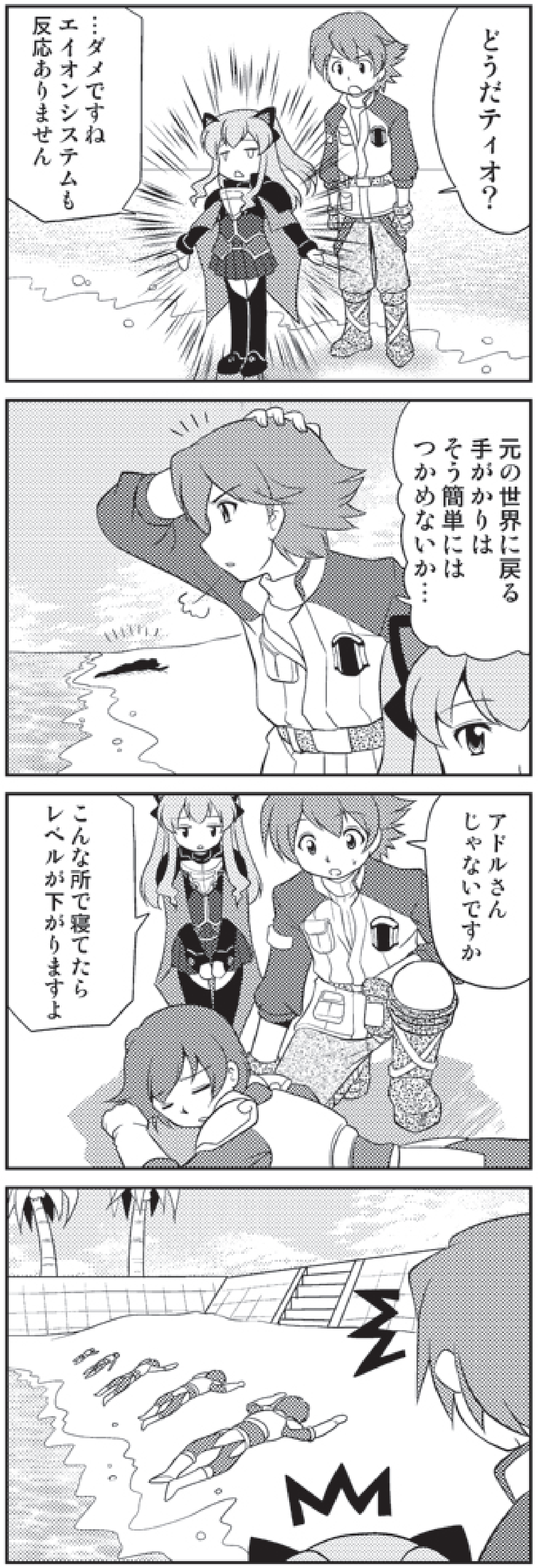
アドルが大増殖するお話。
原作と違い前回のお話とうまく繋げてくださって、「うわぁ、その手があったか！！」と 思わず脱帽してしまいました！ そして「あの」北米版アドルとOVA版アドルも草尾さんが声をあててくださっています。

ちなみにこの北米アドルの線画、実は僕が描かせていただきました！もうね、何と言っていいのやら（涙）

アドルと記憶



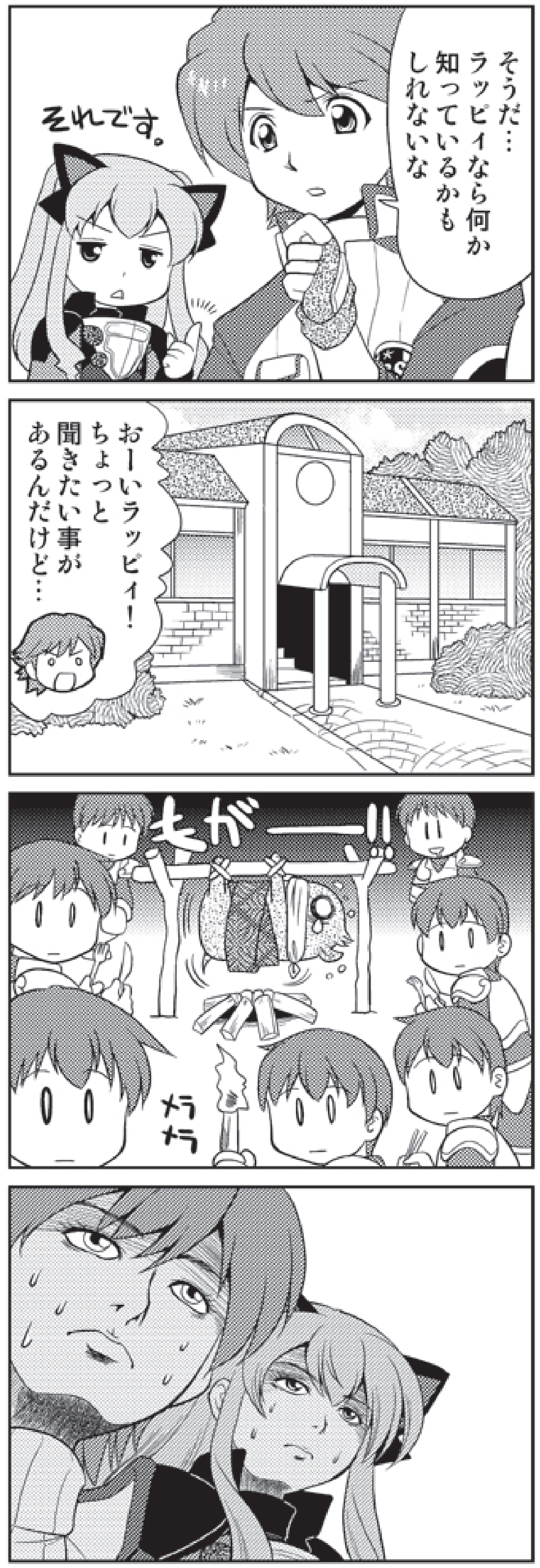
発見者



カオス



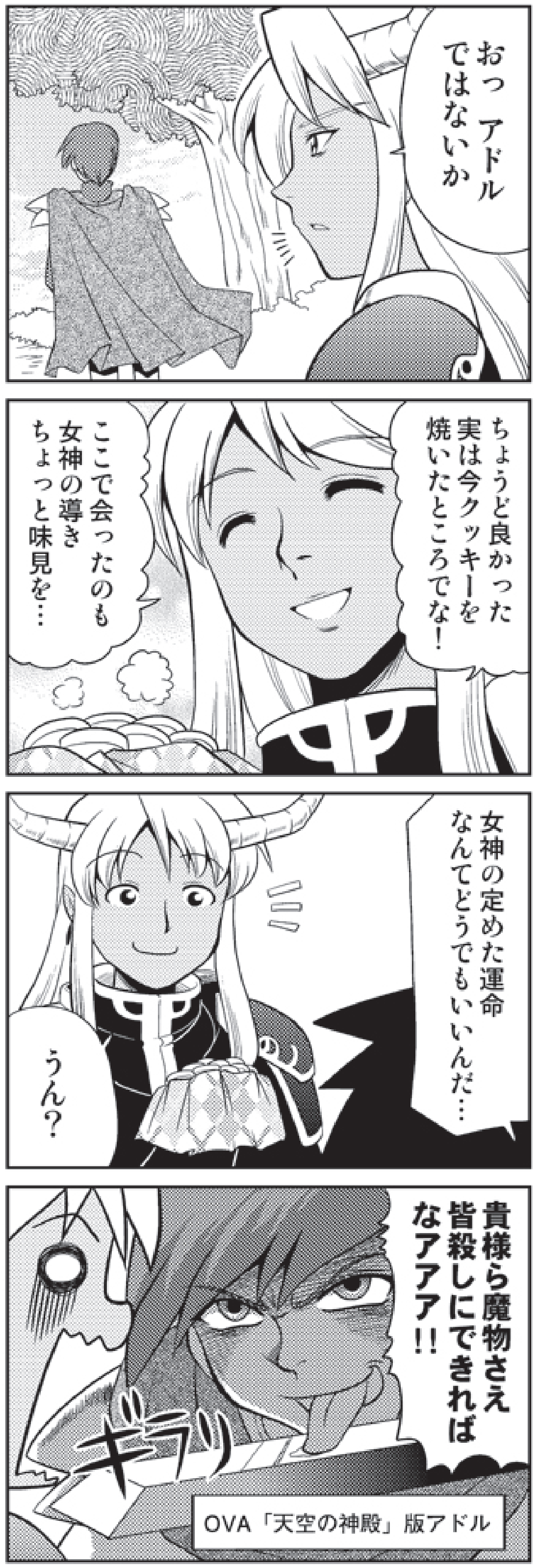
HELP



エレナの疑問



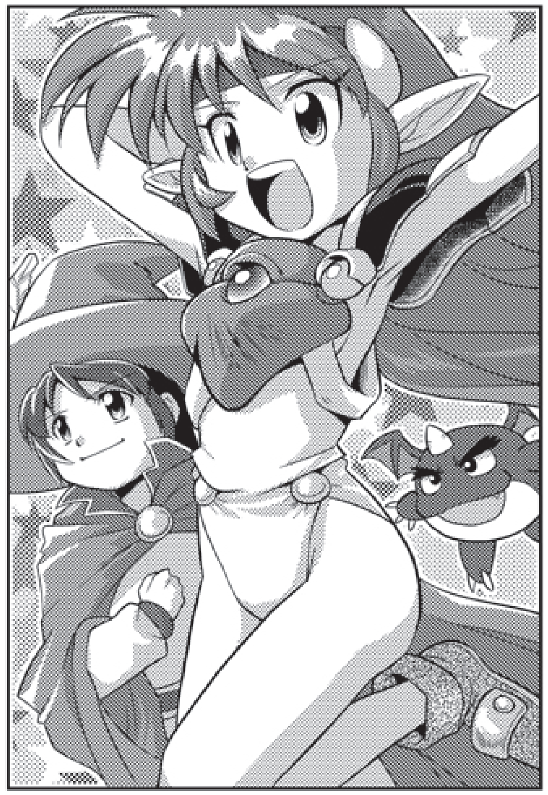
魔物と赤毛



OVA「天空の神殿」版アドル

アドルの軌跡





みんな集まれ！ファルコム学園

新久保だいすけ

マキアスと視線



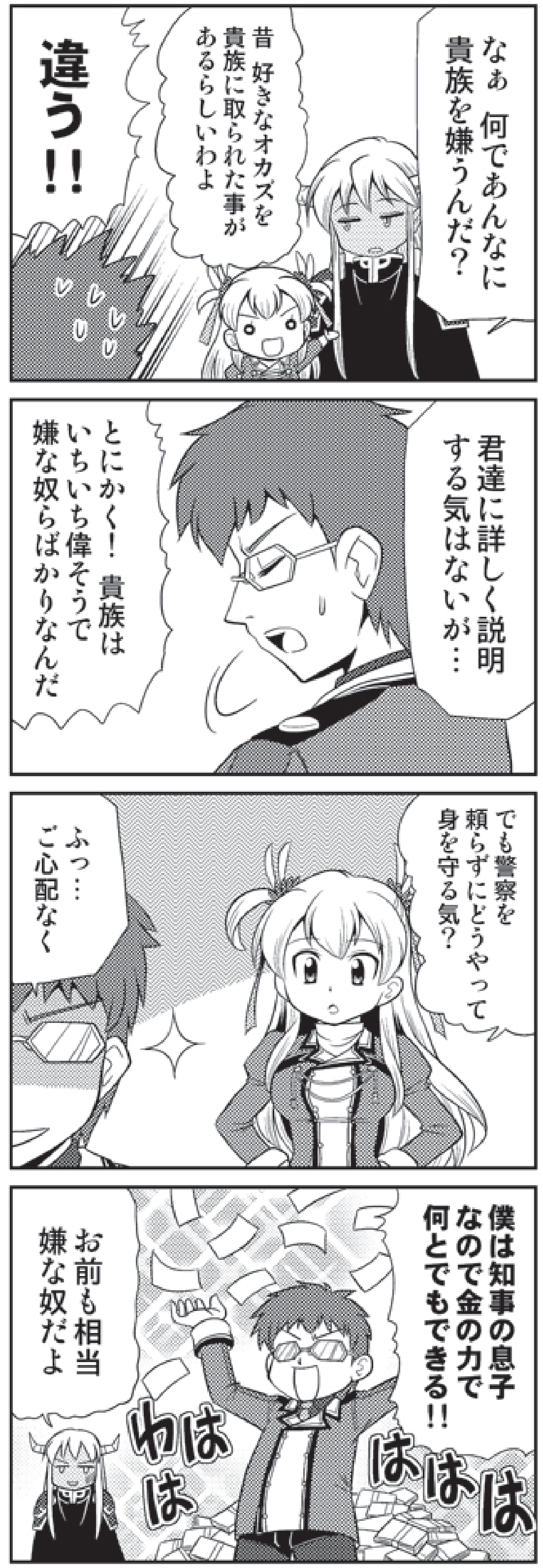
高貴な身分



壁ドン（誤）



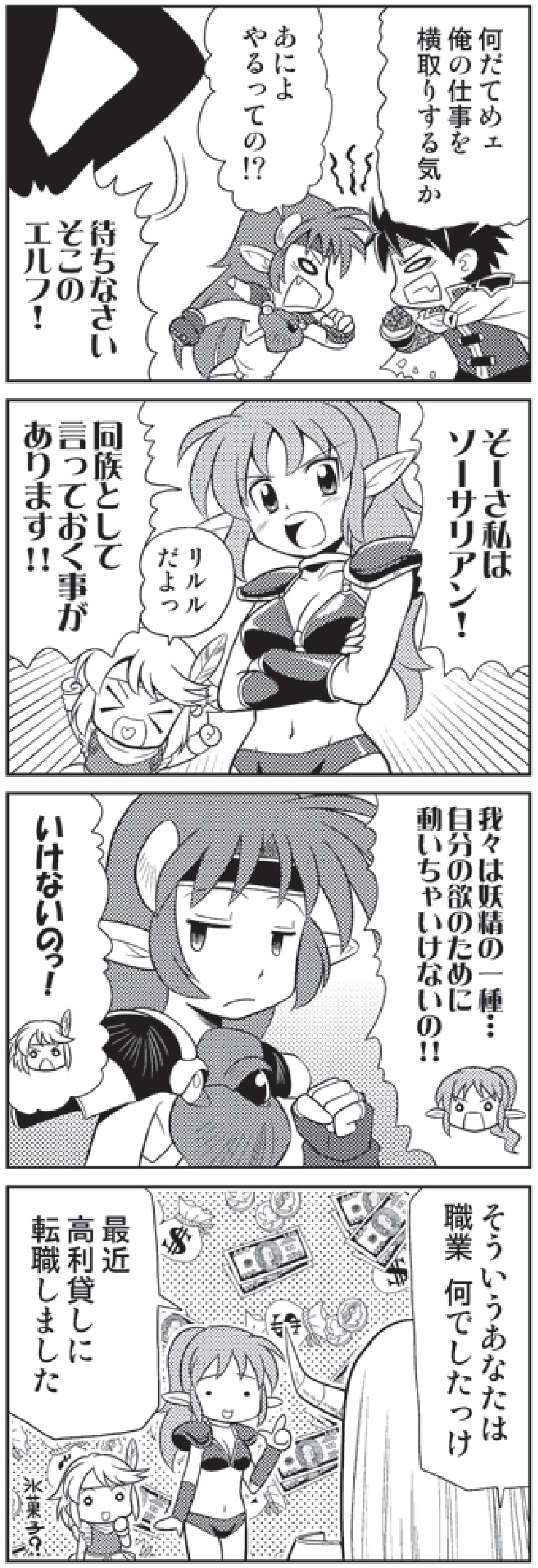
嫌な奴



エルフのセンス



エルフの理想



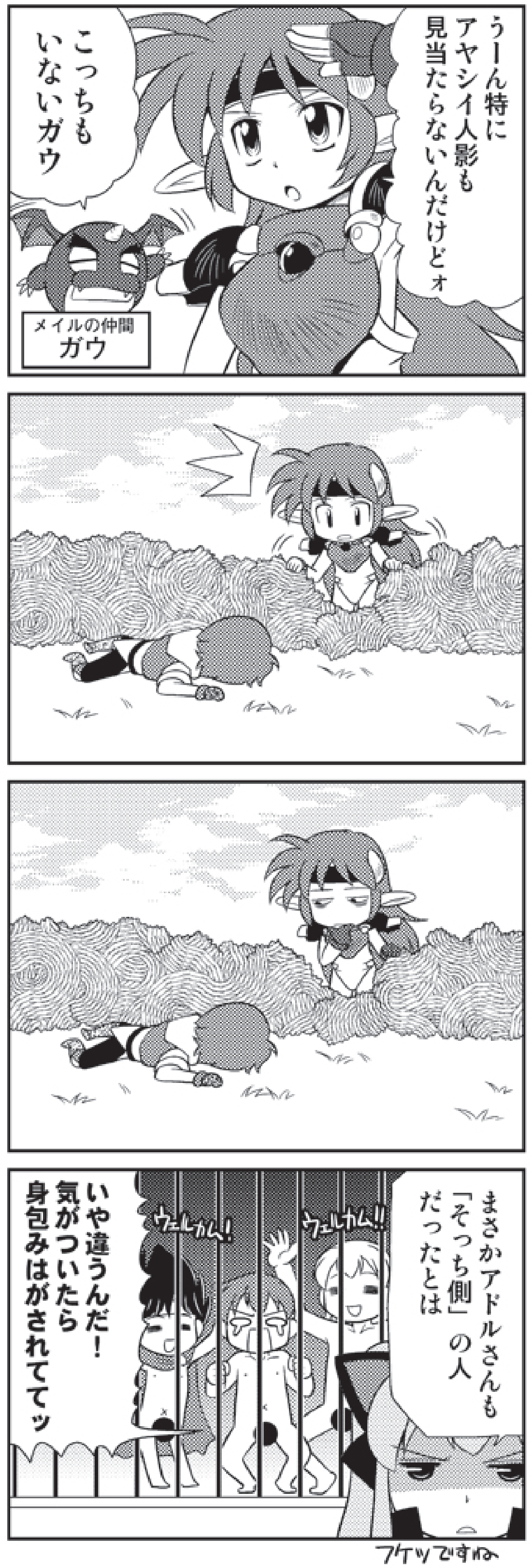
金銭感覚



プライドの値段



メイルとアドル



お弁当



メガネだいばくはつ



伝説の樹の下で



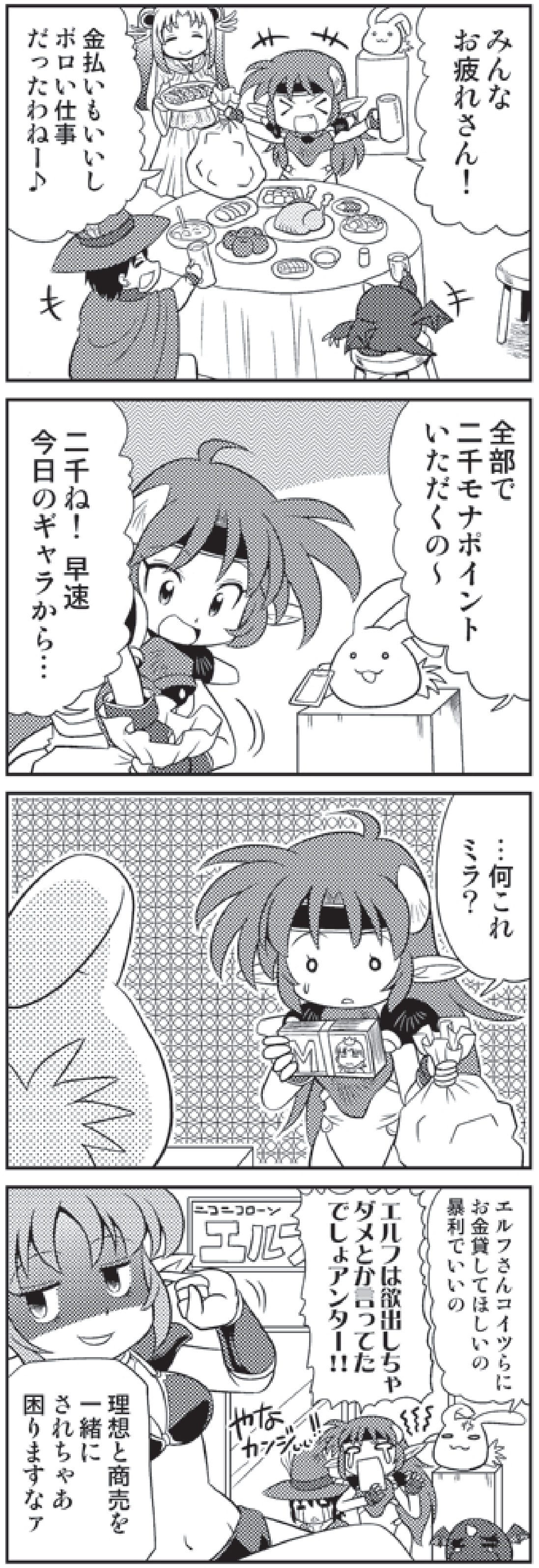
エルンストの友達



それぞれの欠点



エルフの現実





FB ファルコムBOOKS
空の軌跡外伝
レーヴェ物語
作画：楽時たらひ　脚本：田沢大典
『空の軌跡』が始まる──
もうひとつの
原作：日本ファルコム
（『英雄伝説 空の軌跡』）
価格：893円（税込）
ISBN:978-489610-224-6
『英雄伝説 空の軌跡』の人気キャラクター・《剣帝》レオンハルトの過去を描くアウターストーリーのコミカライズ。彼はいかにして《身喰らう蛇》に与みし、数奇な運命を辿ったのか。レオンハルトの目線から見たもうひとつの『空の軌跡』の物語が始まる！
©Nihon Falcom Corp. All right reserved.
全国書店にて大好評発売中!!
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイのHPはこちら
www.field-y.co.jp



目指せ！ファルコム一番星!!
FB ファルコムBOOKS
日本ファルコムの人気キャラクター達が繰り広げるオールスターギャグ四コマの暴走は止まらない！　まさかのアニメ化でますますヒートアップ（？）するファルコム学園に君も入学してみないか!?
ファルコム学園
アニメ化御礼！
みんな集まれ！
ファルコム学園①②
著者：新久保だいすけ
価格：893円（税込）
ISBN:978-489610-245-1
好評発売中!!
©Nihon Falcom Corp. All right reserved.
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイのHPはこちら
www.field-y.co.jp

▶ファルコムニュース◀

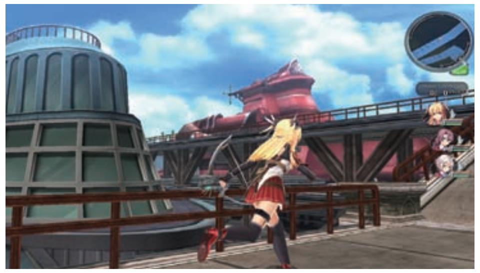
ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！



軌跡シリーズ10周年記念タイトル『英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ』ティザーサイト公開中!!









公式サイトも近日公開予定! http://www.falcom.com/sen2/index.html

閃の軌跡スーパーアレンジバージョン

『閃』の人気楽曲が生まれ変わる!



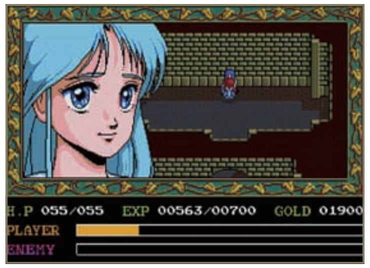
最新作『英雄伝説 閃の軌跡』の80曲を超える劇中使用楽曲の中から特に人気の高い10曲を新規アレンジ＆録音、さらにボーナストラックとして主題歌「明日への鼓動」のフルサイズ版を収録したオリジナルアルバムが発売決定。続編タイトルも決定した『閃』の物語を音楽でも堪能しよう。４月11日発売。2500円。同日よりiTunes®Store・AmazonMP3・moraなど配信サイトでもDL販売を開始。

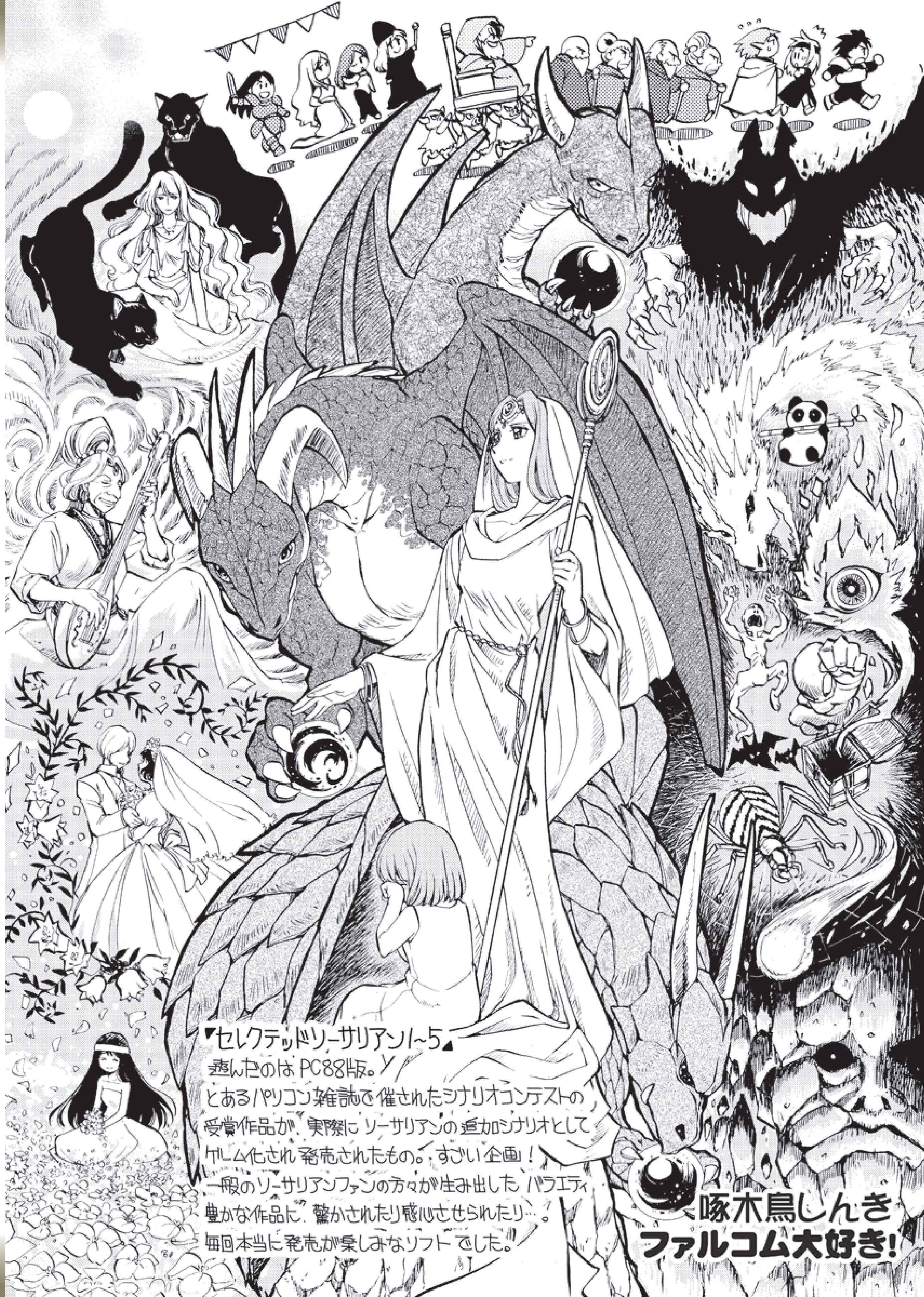
イースシリーズ PS Plus フリープレイ

新旧イースを無料でお届け!

日本ファルコムが誇るアクションＲＰＧの名作「イース」シリーズからPCE版『イースⅠ・Ⅱ』『イース セルセタの樹海 PS Vita the Best』がPS Plusフリープレイタイトルとして登場。25年以上続く看板タイトル『イース』、今なお多くのファンを魅了している冒険家・アドルの物語を新旧遊び比べてみよう！　無料期間は年３月19日～４月15日。詳細は公式サイトまで　→http://www.jp.playstation.com/psn/plus/









日本ファルコムのゲームソングを奏でる専属バンド"jdkBAND"のボーカル。webラジオ「ファルコムラジオ"めんどくさいです…でもがんばります"」では声優水橋かおりさんと共にパーソナリティをつとめる。その他CMソング、ジングルなど活動は多岐に渡る。
twitter @cana_ko_tera

コテ放題

コテカナことjdkBANDボーカル小寺可南子が
ゲームと共に、好き放題な日々のことを描くコラム!!

第14回　クロスセーブの有効活用!?

これなら『閃Ⅱ』にも間に合う……ハズ？

まいどドウモみなさま！　コテカナです！　いよいよ「閃の軌跡」のプレイレポ開始です！　零えば以来久しぶりにPS vitaに触ってみると、操作法をすっかり忘れてて、電源が入れられなかったり（充電切れ）、なかなかソフトを読み込ませられなかったり……といきなりくじけかけました！　でも始めたからには何がなんでも数ヶ月でのクリアを強いられるこの連載。気合いれてがんばります!!　閃はⅡが出ることが発表されて、待ち遠しい方もたくさんいらっしゃるでしょう！　さぁ小寺のこの連載と共にもう一度プレイしてみませんか!?　エンジョ～イ！　閃の軌跡～!!







2011年10月から好評配信中のWEBラジオ『ティオのファルコムラジオめんどくさいです…でもがんばります』の舞台裏をこっそりお届け♪

ティオのファルコムラジオめんどくさいです…でもがんばります
■**配信日**　毎週金曜日、公式HP、ランティスラジオ、ニコニコ動画にて更新。
■**メインパーソナリティ**　水橋かおり（『碧の軌跡』ティオ・プラトー役）　小寺可南子（『ファルコムjdkバンド』ボーカル）
■**公式ホームページ**　http://www.falcom-radio.com/

第117回-第119回　進藤尚美（『零の軌跡Evolution』ソーニャ・ベルツ役）

117-119回は、進藤尚美さんが3回目のゲスト出演。『零』『碧』のソーニャ役。『閃』のアンゼリカと、立て続けに大きな役どころを演じられてきた進藤さんだが、今回は今年の1月からTV放送中の『みんな集まれ！ファルコム学園』のラッピィ役も加わり、さらにバリエーション豊かなトークが繰り広げられた。アニメ『ファルコム学園』繋がりの、キャストコメントは、レン役の西原久美子さんとティータ役の今野宏美さん。そして、原作者の新久保だいすけ先生への突撃レポートが放送された。

▶第117回-第119回の舞台裏◀

ガチくん、しおりんによる新久保先生への突撃レポート。これは、小寺さんがいつも仕掛けられているように、事前に何も知らされずに行われた完全ドッキリ。収録が一段落した隙に打ち合わせをし、いざ新久保先生がひとりきりになったところを狙い、仕掛けたものなのだ！

第120回　なし（ミュージックライブラリ）

120回は毎回大好評の、ファルコムの名曲の数々を紹介していくコーナー「ファルコムミュージックライブラリ」と、久々の「あの」コーナーの2本立て。「あの」コーナーとはもちろん、ガチくん、しおりんによるお料理スペシャルだ。今回はバレンタイン当日の放送ということで、ふたりがチョコレート作りに挑戦。ガチくんは今回も毎度のごとく、なんとか無難にまとめたのだが、問題はやはりしおりん。なんと、チョコの中にキュウリの漬物を入れるという暴挙。あまりのデキに水橋さんが壊れてしまう衝撃の結末に。

▶第120回の舞台裏◀

水橋さんをはじめ、出演者全員を爆笑の渦に落とし入れたしおりんの特製チョコレート。実際に放送された中でもその様子を垣間見ることができるが、この爆笑はかなりの間にわたり続き、しばらくは収録再開ができないほどの威力を発揮していたのだ。



今月のコテガキ

毎週更新とともに発表される、小寺さん直筆の「コテガキ」を少しだけご紹介！



岡島俊治（Okaji）

1979年6月9日生まれ
ドラマー/パーカッショニスト/作曲、編曲家/プロデューサー
洗足学園短期大学器楽科打楽器専攻卒業。
2000年、ロックバンド『HeadPhonesPresident』のドラマーとしてデビュー。
2005年、同バンド脱退後はフリーミュージシャンとしての活動を開始。様々なアーティストのサポート、レコーディング、プロデュース等を行う。
2008年より『ファルコムjdkバンド』に参加。
主な共演歴：jdk BAND、Sixh.Opera、HeavensDust、野宮真貴、植村花菜、CORE OF SOUL、DENIAL、安藤裕央、清田愛未、中村幸代、一純悠人、momokomotion、越尾さくら…etc

人生半キャラずらし



jdkバンドのドラマー・オカジがファルコムと音楽と人生について熱く語ります！

「I Swear ～英雄伝説 空の軌跡SC オリジナルサウンドトラック」

いや、しかし本当に寒い。

今月なんぞは都内でも寒いばかりか、豪雪まで記録したりしているわけだが、そんな雪の降りしきる中、僕が何をしていたかと言えば、年始一発目のjdkTVの収録である。しかもこのファルコムマガジンで「みんな集まれ！ファルコム学園」を絶賛連載中の、新久保だいすけ先生をゲストに迎えてのスペシャルバージョンだ。今回は、「立川のダームの塔」として名高い日本ファルコム本社にて、通称「カスティーリョ」と呼ばれるバックヤードから、お宝の数々が、太陽の神殿よろしく大量に出土したという噂を聞きつけ、ファルコム研究家としての肩書きをも持つ新久保先生に急遽駆けつけて頂いたというワケである。

雪の降りしきる立川駅はまるで戦国ソーサリアンの「織田信長の章」そのもの。改札口で待ち合わせをした新久保先生と「これが俗に言う雪の五条大橋ですよ。アッハッハ！」などという本気なのか冗談なのかわからない妙なファルコムトークに花を咲かせながら、意気揚々と塔の入り口へと向かう。丁度、塔の扉の前に家を建てて住み着いている盗賊の男にウィングを没収されたのは、今となっては良い思い出だ。



そして会議室に通された我々は、信じられないようなお宝の山を目撃する事となった。何体ものリリアのフィギュア、ソーサリアンのオルゴール、白き魔女やブランディッシュ２のジグソーパズル、巨大なぽっぷるメイルの額入りポスター、もっと巨大な朱紅い雫の店頭用タペストリー、３Ｄのアルセイユ号が刻み込まれたクリスタル、ソーサリアンの杖状キーホルダー、ＹｓⅢのボールペン、そしてファザナドゥのシール入りカップラーメン……。ここには書ききれない位のお宝が我々の眼の前で踊り、美しく舞っていた。その煌きはまるでシュリの踊りのようでもあり、また98版ドラスレ英伝2でしか見ることのできないフローラダンスのようでもあった……。

正直に言わせて頂くとすれば、そんなお宝を目前にした我々がどんな会話をしていたのかなんて、まったく覚えていない。しかも途中からは近藤社長まで乱入し、ウルトラC級にレアな極秘資料を持ってくる始末。

どこかの時点で、僕の理性と呼ばれるものは、いつしか消えてしまっていたのだろう。

最終的には、猛烈なプロ目線で白き魔女の原画を食い入る様に眺める新久保先生と、静かに情熱を燃やしながら当時のオフ会の模様とザナドゥシナリオ2購入の経緯を嬉々として話す近藤社長と、恍惚の表情で笑顔を浮かべながら呂律が回らなくなる自分がそこには居た……。

一体何処から何処までが収録で、何処から何処までがオフ会だったのか。そもそも何故、ファルコムの会議室の中でこのような盛大なオフ会が開かれていたのか。

……そのすべての謎は、今後発表されるjdkTVで明かされていく事になるだろう。ぜひとも期待してお待ち頂きたいと思う。

帰宅途中、気がつけば、僕のカバンの中には「Trails In The Sky」という海外ゲームのパッケージが入っていた。そうだ、近藤社長から頂いた「空の軌跡」の北米版だ。空を見上げると、豪雪というには少し弱まった粉雪が、まるで崩れ落ちるリベルアークの破片のように降り続いていた。

僕は手持ちのiPodで「I Swear…」を聴きながら家路を急ぐ事にした……。

（このコラムは事実を元にしたフィクションであり、ほとんどは事実ですが、主に地名や人物像等に盛大な脚色が盛り込まれております。ご了承下さいませ。）

「英雄伝説 空の軌跡SC オリジナルサウンドトラック」
空の軌跡SC」から追加された新曲全44曲を一挙収録！
ボーナストラックとして、ゲーム中では使用されなかった主題歌「銀の意志 金の翼」フルバージョンも収録！

■価格　3,129円(税込)／ＤＬ版：　2,400円(税込)
■収録曲：全44曲
■商品ページ　ファルコムオンラインショップ
http://www.falcom.co.jp/mailorder/catalog/m064.html
■DL販売サイト：iTunes、AmazonMP3、moraほか

≪Falcom jdkバンドライブ特設サイトURL≫
http://www.falcom.co.jp/jdk/index.html

Falcom FanArt Collection

数々の名作で多くのファンを生み出してきた日本ファルコム。
FFCでは、そんなファルコムを愛するイラストレーターの方々のイラストとコメントを毎月お届けします！



咲島キア

空の軌跡をプレイして以来、軌跡シリーズとファルコムさんの大ファンになりました！　現在は閃の軌跡と空の軌跡ＦＣ（４周目）を並行プレイ中です。今後もファルコムさんのゲームで楽しませて頂きます！

『英雄伝説 空の軌跡』エステル（2004）

「軌跡」シリーズ初の女主人公となった彼女は『the 3rd』・『零』の終盤にも登場する特に人気のキャラクター。持ち前の明るさと純粋さで、敵ですら毒気を抜かれてしまうシーンも!?

FB ファルコムBOOKS

英雄伝説 零の軌跡

四つの運命

著者：田沢大典　イラスト：松竜



特務支援課はここから始まった!!

日本ファルコムの大ヒットRPG『英雄伝説 零の軌跡』から、ロイドたち特務支援課の過去エピソードを描いたオフィシャルノベライズ。ゲーム本編では語られなかった名シーンの裏側やキャラクターそれぞれの心情が今、明らかになる！

原作：日本ファルコム

（『英雄伝説 空の軌跡』）

価格：1,155円(税込)

ISBN:978-489610-215-4

全国書店にて大好評発売中!!

発行：フィールドワイ
発売：メディアパル

フィールドワイのHPはこちら www.field-y.co.jp

FB ファルコムBOOKS

英雄伝説 零の軌跡

午後の紅茶にお砂糖を

著者：むらさきゆきや

イラスト：窪茶



日本ファルコムの大ヒットＲＰＧ『零の軌跡』・『碧の軌跡』の主人公【特務支援課】の日常は意外とまったり!?　本編とは一味違った彼らのゆる〜い毎日を描いて『月刊Falcommagazine』で大人気を博したノベライズがついに単行本で登場！

12月6日発売!!

価格：1,155円（税込）

ISBN：978-4-89610-255-0

発行：フィールドワイ
発売：メディアパル

フィールドワイのHPはこちら www.field-y.co.jp

『みんな集まれ！ファルコム学園』の原点!?
イースと空の軌跡が交差したハチャメチャコメディ

イース＆
空の軌跡vs.ヴァン・ジョー



現在好評放送中のTVアニメ『みんな集まれ！ファルコム学園』。
このアニメは、ひとつの世界にさまざまなファルコム作品のキャラクターが集い、
ドタバタ劇を繰り広げるコメディ作品だ。そこで今回は、同じようなコンセプトのもと
作られた、2010年に発売されたPSP『イースvs.空の軌跡 オルタナティブ・サーガ』の
限定版に同梱されたドラマCDのシナリオを一挙掲載。
ちなみに、このジャケットを描いたのは、何を隠そう新久保だいすけ先生だ！

■イース＆空の軌跡vs.ヴァン・ジョー

【キャスト】

アドル・クリスティン：草尾毅
エステル・ブライト：神田朱未

ヨシュア・ブライト：斎賀みつき
アイシャ＝サリ＝エドナス：三上枝織
ティータ・ラッセル：今野宏美
エリカ・ラッセル：雪野五月
ダン・ラッセル：草尾毅
アガット・クロスナー：近藤孝行
オリビエ・レンハイム：子安武人
ガッシュ：佐藤拓也

ナレーション：銀河万丈
ダーム：銀河万丈
ガルバラン：銀河万丈
アグニージャ：銀河万丈
ギャラクシー・ヴァン・ジョー：銀河万丈

○アバンタイトル

ナレ　「失われし大地。その名を《ザナドゥ》。かつて桃源郷と呼ばれたこの地を支配せんとした、《魔王ガルシス》。その野望は、異世界から来た戦士達によって打ち砕かれた。彼らは元の世界に戻り、それぞれの日々を暮らしていたのだが……」

■第1章

エステル　「第1章。またしてもザナドゥ」

○森の中

寝ているエステル。

エステル　「Zzz……」

ヨシュア、起こす。

ヨシュア　「起きて、エステル」

エステル　「んんぅ……もう朝ぁ?」

ヨシュア　「エステル！　何かおかしいんだ。気づいたら、こんなところに……」

鳥たちの鳴き声（ちょっとおどろおどろしいやつ）

エステル「……あー、夢か」
ヨシュア「え？」
エステル「まだ夢見てるのよ。じゃ、もいっかい寝るー。おやすみー」
ヨシュア「エステル、起きて！　夢の中で夢を見てるってこと自体がおかしいじゃないか！」
エステル「むずかしいこと、わかんないー」
ヨシュア「エステル、起きて、エステル！」

×　×　×

エステル「ふわぁ……よく寝た」
ヨシュア「目が醒めたら全然違うところにいたっていうのに、冷静だね、君は……」
エステル「遊撃士たるもの、何事にも動じない強い心を持たないとね！」
ヨシュア「鈍感なだけだと思う……」
エステル「ていうか、ここ、ザナドゥじゃない？」
ヨシュア「え……」
エステル「ほら、前にも飛ばされたじゃない。なんか気づいたらここにいてさ。で、ヨシュアと会えたけど、操られてて」
ヨシュア「そうだ……それで、君とアドルさんに助けてもらって……でも待って。あの時確か、魔王ガルシスを倒して、この世界は平和になったんじゃ」
エステル「そういえば、そうよね。あの……ほら、なんとかかんとかーって剣を使って！」
ヨシュア「あのね……なんとかかんとかじゃなくて……」
次の2セリフ、ふたり同時に。
エステル「ナントカカントカー」
ヨシュア「ドラゴンスレイヤー」
エステル「ほら、だいたいあってるじゃない」
ヨシュア「カケラもあってないよ！」
ガサガサと草が揺れる音。
エステル「誰!?」
ナレ「草むらから、アドルとアイシャが現れた」
アドル「君たちは……！」
ヨシュア「アドルさん！　それに……」

エステル「久しぶりー！　あ……あ……」
アイシャ「アイシャよ、ア・イ・シャ！　まったく、直前にナレーションが言ってるんだからちゃんと聞いててよ！」
エステル「あはは、ごめんごめん。でも久しぶりだねー。元気してた？」
ヨシュア「待ってエステル！　前みたいに、操られているかもしれない」
アイシャ「それはこっちのセリフよ！」
ナレ「操られている目ではないとアドルは首を振った」
アイシャ「そう言われれば……」
エステル「私たち、またいきなり連れてこられて困ってるの」
アイシャ「それはこっちもよ。ね、アドル」
ナレ「アドルはうなずいた」
ヨシュア「そうですか……」
エステル「なら、とにかく歩いて、情報を集めないとね。今のままじゃ、なにも分からないわ」

×　×　×

ナレ「こうしてアドル一行は、エステルたちを仲間に加えて、旅を続けるのだった」
エステル「ちょっとー、あたしたちが最初に登場したのに、どうして『アドル一行』なのよ！　納得いかないんですけど」
ナレ「え？　そう言われても……。とにかく、旅を続ける一行の前に、ひとりの男が現れた」
アガット「おおっと、待ちやがれ！」
エステル「アガット！」
ヨシュア「気をつけて、エステル。なんだか様子がおかしい」
アガット「へっ……おい、そこの赤毛！」
アドル「え、僕？」
ナレ「アドルは、自分を指差した」
アガット「そう、お前だお前。悪いがここで死んでもらうぜ」
エステル「ちょっと！　なに言ってるのよ！」
ヨシュア「やはり、操られているみたいだ」
アイシャ「でも、魔王ガルシスはあたしたちの手で倒したじゃない。だとしたら、いったい誰が……」
アガット「操られてるだぁ？　へっ、カン違いしてもらっ

ちゃ困るぜ。俺はただ……」

アイシャ「ただ？」

アガット「そこの赤毛と、キャラがかぶるのがガマンならねぇんだよ！」

エステル「……はい？」

アガット「赤毛キャラはこの世界にふたりもいらねぇ！　どっちが真の赤毛キャラか、この場でハッキリさせてやる！」

ヨシュア「そんな理由で……」

アガット「問答無用！　はあーーーーーっ！」

キン！　と剣で剣をはじく。

アドル「ぐっ！」

ナレ「アドルは、とっさに剣で受け止めた」

アガット「やるじゃねえか……そうこなくちゃな！」

アドル「はっ！」

しゃっ！　と剣を振るうアドル。

ナレ「アドルは、剣を振るった」

アガット「そんなんじゃあたりもしねえぜ！」

アドル「やぁぁ！」

ナレ「アドルは、さらに剣を振るった」

アガット「よっと！　今度はこっちからだ！　はあっ！」

ナレ「アドルは、身をかがめて剣を避けた」

アガット「ほらほら、どうしたどうした！」

ナレ「アドルは、最初の剣をすんでのところでかわし、次は自らの剣ではじき、さらに次の剣を受け流しつつ……」

アドル「あの、ちょっと」

ナレ「剣は火花を散らしながらぶつかり合い、アドルは……」

アドル「ちょっと！」

ナレ「なんですか!?　いま大事なシーンの真っ最中で……」

アドル「うるさいんだけど」

ナレ「え？」

アドル「戦いに集中出来ないから、少し黙っててくれないか？」

ナレ「でも、これが私の仕事ですし……」

アドル「戦闘中にナレーションがついた事なんてなかったじゃないか」

ナレ「そ、そうなの？　アレ？　そうだっけ？　そう言われてみれば……でも今さらやめるのも……。え、どうしても？　……はーい、わかりました。それじゃ手っ取り早く。アドルはアガットを倒したっと」

アドル「たーーっ！」

アガット「そんなの、アリかよっー！　ぐあっ……！」

ばたり、とアガットが倒れる音。

ヨシュア「アガットさん！」

アガット「ぐ……いったい俺は、なにを……」

エステル「よかった！　正気に戻ったのね」

アガット「教えてくれ、エステル、ヨシュア。いったいここは……」

エステル「ザナドゥよ。前にも来たことあるでしょ？　どうやら、また同じように飛ばされて来たみたい」

ヨシュア「いや……前とは違う」

アイシャ「なんですって？」

アガット「前とは違うって、どういうことだ、ヨシュア!?」

ヨシュア「前より……ユルい」

アイシャ「は？」

ヨシュア「ユルいんだ。アガットさんが襲ってきた理由は『赤毛キャラがかぶるから』だし、アドルさんは普通にナレーションに突っ込んでるし」

エステル「そう？　ザナドゥってそういう世界じゃなかったっけ？」

ヨシュア「違う！　目を覚ましてくれエステル！　君もこの世界に来てからなんか変じゃないか!?」

アガット「変っつーか……」

アイシャ「エステルって、もともとこういう人でしょ？」

ヨシュア「えっ？」

アイシャ「細かいことは気にしない」

アガット「なにが起きても『ま、いっか』」

ナレ「アドルは、同意して深くうなずいた」

ヨシュア「た、確かにそういうところはあるけど……」

エステル「いやー、そんなに褒められると照れるわねぇ」

ヨシュア「褒めてないよ！」

アイシャ「心配することないんじゃない？　まだ序盤だし、これからこれから」

エステル「だよね～」

ヨシュア「……この二人、似てるのはツインテールだけじゃないのか」

アイシャ　「きっとラストにむけて、ガンガンと盛り上がっていくのよ！」

ダーム　「いや、お前達の冒険は、ここで終わりを告げるのだ」

ハッ！　と息を呑む一同。

アイシャ　「誰!?」

ダーム　「久しいな、アドル＝クリスティン」

アドル　「お前は……ダーム！」

※ダームは巨大な黒真珠の形をしています。

エステル　「見てみて、ヨシュア！　でっかい黒真珠よ！　うわ〜高そう〜！」

ヨシュア　「エステル……いまはそういうこと言ってる場合じゃないと思う」

アイシャ　「あれ、なんなの？　アドル」

アドル　「奴は魔王ダーム。すべての魔物とすべての魔法の根源だ」

ナレ　「アドルは超簡単に説明した」

アガット　「すべての根源だと!?」

アイシャ　「とてつもなくやっかいそうな相手ね……」

アドル　「どうしてお前がこの世界に!?」

ダーム　「ククク……この世界に召還されたのが、貴様たちだけだと思うなよ」

アドル　「お前も召還されたというのか……！」

ダーム　「貴様たちの命運はここで尽きる。すべての魔法は、私には通用しないのだからな。クク……ハハハハハ！」

アドル　「くっ……ここには、クレリアソードはない。一体どうすれば……」

エステル　「ボルカニックレイブ！」

ヨシュア　「シャドウスピア！」

アーツ発動音。

ダーム　「ぐあーーーっ！」

エステル　「よし、効いてる効いてる」

ダーム　「な、なぜだ……あらゆる魔法は通じぬはず……」

エステル　「だって、アーツって普通の魔法じゃないし」

ダーム　「な、なに!?」

アイシャ　「なるほど！　あたしたちの世界の魔法とは、

理(ことわり)が違うものね。そりゃ効くわけだ」

ダーム　「そ、そ、そんな理屈が通じるものか！」

ヨシュア　「そう言われても、通じちゃってますし」

エステル　「ね、次はクラフトが効くか試してみましょ」

アガット　「それじゃ俺の出番だな……へへへ、覚悟しろよ、この石っころ！」

ダーム　「石ではない！」

アガット　「細かけぇことはどうだっていい！　いくぜ！　ドラグナー、エッジィ！！」

アガット、クラフト発動音。

ダーム　「ぐあーーーーーーーーーっ！」

ダームが砕け散る音。

ナレ　「ダームは、こなごなに砕け散った！」

アガット　「よっしゃあ！」

チャリーンチャリーンと、ドロップアイテムを拾う効果音。

エステル　「♪黒真珠、黒真珠〜、売ったらお金がいっぱいで、いい武器いっぱい買える〜」

アイシャ　「落ちてるものは根こそぎ拾う！　基本よね〜」

アドル　「これなら凄い装備が合成できそうだなぁ」

ナレ　「アドルはダームのカケラを集めながら微笑んだ」

エステル　「ちょっとアガット！　いつまでもガッツポーズしてないで拾いなさいよ！」

アガット　「お、おう」

かちゃかちゃと拾い集める音。

ヨシュア　「……やっぱり、ユルいんじゃないかな」

エステル　「こらー、ヨシュアも手伝いなさい！」

■第2章

ティータ　「第2章。真のヒロイン？」

○森の中

ナレ　「ダームを倒したアドル……とエステル一行は、

エステル「前回の決戦の舞台となった奇巌城をめざし、旅を続けていた」
ヨシュア「他に手がかりもないしねー」
アイシャ「ま、こうしていれば、そのうち、同じように飛ばされてきた人と、合流出来るかもしれないじゃない」

ポロン、とリュートの音。

オリビエ「やぁ」
エステル「オリビエ！　あなたもこの世界に来てた……」

食い気味に。

ナレ「アドルは身構えた」
エステル「え……どうしたの、アドルさん？」
ヨシュア「気をつけて、エステル。目が普通じゃない」
オリビエ「おや、見破られてしまったか。さすがはヨシュア君、僕のことをよく観察しているね。愛をひしひしと感じるよ！」
ヨシュア「違います」
エステル「そういうことなら、一発ぶん殴って、目を覚まさせてあげるわ」
アガット「おいおい、いくら相手が変態とはいえ、いきなりぶん殴るっつーのはよくないんじゃねーか？」
オリビエ「ふふふ……何かごちゃごちゃ言っているようだけど、コレを見て、まだ悠長なことを言っていられるかな？」
ナレ「オリビエは自分の背後から、小さな少女を連れてきた」
ティータ「エ、エステルお姉ちゃん！」
エステル「ティータ!?」
オリビエ「さぁ、どうするかね諸君？　こちらには人質が……」
アガット「ファイナルブレイクゥッ！！！」

ドカーンと爆発音。

オリビエ「あーれー」

キラーンとお星さまになるオリビエ。

アガット「無事か、ティータ!?」
ティータ「は、はい、平気です。えへへ……アガットさんに助けてもらっちゃった」
エステル「あの～アガットさん？　いきなりぶん殴るのは良くないんじゃなかったの？」
ヨシュア「しかも、最終奥義を出すなんて……極端すぎる気が」
アガット「う、うるせぇ！」
エステル「でも、どうしてティータはオリビエと一緒に？」
ティータ「うん……私、この世界に飛ばされちゃって、ひとりぼっちで、すごく不安で……そんなときに、オリビエさんが現れたの」

○回想シーン

回想シーンなので、多少わざとらしい演技で。

ティータ「すんすん、すんすん。ひとりぼっちはさみしいよぉ」
オリビエ「お、お、お、お嬢ちゃん。こここここんなところでどうしたの？」
ティータ「あ、オリビエさん！」
オリビエ「お、お、お、お嬢ちゃん。アメ、アメあげるからついておいでドゥフフ！」
ティータ「アメくれるの!?　うん！　一緒にいくー！」

回想シーン終了。

○森の中

一同「…………（声にならない感じ）」
ティータ「あれ？　みんな、どうしたの？」
エステル「ティータ！」
ティータ「は、はい」
エステル「知らない人について行っちゃ、ダメ！」
ティータ「え？」
アガット「そうだぞティータ！　世の中にはな、こわーいものがいっぱいあるんだ！　だから、アメあげるとか言われてホイホイついて行くんじゃねぇ！」
ティータ「え？　で、でも、オリビエさんは知らない人じゃないし……」
ヨシュア「知らない人より危ないよ、あの人は」

エステル　「ヨシュアの言うとおり！　いいティータ、知らない人とオリビエにはついて行っちゃダメ！　例えアメをもらおうと！　わかった？」
ティータ　「う、うん、わかった！」
アイシャ　「……なんなのかしら、これは」

○城の前

ナレ　「一行は、ティータが見つけたという、城に向かって歩いていた」
ティータ　「ひとりぼっちで歩いている時にね、見つけたの。でも、なんだか怖そうだったから、近寄れなくて……」
アイシャ　「あ、お城が見えてきたわ！」
ナレ　「アドルは、急に立ち止まった」
アイシャ　「あれ？　どうしたの、アドル？」
アドル　「人がいる」
ナレ　「アドルが指差した先には、ハルバードを背負った、ひとりの男が立っていた」

ガッシュ、歩いてくる足音。

ガッシュ　「久しぶりだな」
エステル　「あの人って、アドルさんの知り合いの……」
ヨシュア　「ガッシュさん、だったよね。よく覚えてるよ。かなりの達人だった」
アイシャ　「ガッシュ、あなたまでこの世界に？」
ガッシュ　「ああ。また呼ばれるとはな。とはいえ、今度は誰かに操られるなんてヘマはしなかったが」
アガット　「なら話が早ええ。戦わずに済むな」
ガッシュ　「それは……どうかな」

ガッシュ、ハルバードをアドルに向ける。

ナレ　「ガッシュは、ハルバードをアドルに向けた」
一同　「えっ？」
アイシャ　「ちょっと、なにしてんのよ！」
ガッシュ　「アドル、ひさしぶりに、アンタと手合わせしたくなってね」
ナレ　「アドルは首を横に振った」
アドル　「今は戦っている時じゃない。君もわかるだろう」
ガッシュ　「わからねえな。戦いたいから戦う、戦士にとってそれ以上の理由が必要か？」
エステル　「なにバカなこと言ってるのよ！　あのね……」
ガッシュ　「女子供はすっこんでろ！　それに、俺を倒せないようじゃ、この先に進んでも無意味だぜ。……どうする、アドル？」
アドル　「……仕方ない」

剣を抜く音。

ナレ　「アドルは剣を抜いた」
ヨシュア　「アドルさん！」

かちゃり、と剣の音。一歩歩みを進めるアドル。

ティータ　「ダ、ダメーーーーッ！」
ナレ　「ティータが、二人の間に割って入った」
アガット　「ティータ！　あのバカ！」
ガッシュ　「!?」
ティータ　「あ、あの、その……」
ガッシュ　「な、なんだ？」
ティータ　「お、お友達同士で戦うなんて、よ……よくないことだと、思いますっ！　な、仲良く、した、方が……うぅ……」
ガッシュ　「じゃ、邪魔する……な」
ティータ　「でもでも、思い出してください、前はみんなで力をあわせて戦ったじゃないですか、それなのに……」
ガッシュM　「こいつ…、こんなにちっちゃくて、力もないくせに……そうだ！　あの時も一生懸命で……必死で……か、可憐だった……」
エステル　「ムダよ、ティータ！　その人は、誰の説得も……」

ガッシュ、ハルバードを納める。

ナレ　「ガッシュは、ハルバードを納めた」
エステル　「え？」
ガッシュ　「今日のところは、そこのチビに免じてやめといてやる」
エステル　「え、あ、あのー、さっき私が言ったときは、女子供はすっこんでろって……」
ガッシュ　「オホン！　この城には、なにか秘密があるようだ。いくぞ、アドル」
ティータ　「あ……あの」

ガッシュ「な、なんだ？」
ティータ「ありがとうございます、ガッシュさんっ！」
ガッシュ「……べ、別に、礼を言われるようなことじゃない。さ、時間が惜しい。行くぞ」
ガッシュM「可憐すぎる……なんだこのドキドキは……どうした、どうしたんだ俺！」
ガッシュが真っ赤になって歩き出す。
アイシャ「顔、赤くなってるわね……」
ヨシュア「完全に落ちたね」
エステル「ティータ……おそるべし」
ナレ「しかし、ガッシュの気持ちは良くわかる、とアドルはひとりうなずいた」
アガット「いいか、ティータ。あの黒髪野郎の側に近寄るんじゃねえぞ」
ティータ「ほえ〜？ ど、どうしてですか？」
アガット「（かぶり気味に）どうしてもだ！」

○王座の間

ナレ「一行は、城の奥深くへと進み、王座の間らしきところに出た」
アイシャ「なーんか、イヤな感じがするわね」
アガット「おいティータ、あんまりウロチョロするな」
ティータ「でもこの王座、なんだか不思議な形をしてるんですよ。何か機械仕掛けがあったりするのかな……わくわく」
ガルバラン「フフフ……のんきなものだな」
ガッシュ「何者⁉」
ヒュンヒュンヒュン触手の音
ティータ「え……やあっ⁉」
ナレ「ティータが触手に絡めとられ、その背後に異形の者が現れた」
アドル「お前は……ガルバラン！」
エステル「今度はなに〜⁉」
ヨシュア「なんて禍々しい姿だ……」
アドル「ガルバラン、お前まで召喚されていたのか！」
ナレ「アドルは、かつてフェルガナで戦った魔王だとみなに説明した」
エステル「は、はぁ……アドルさんって、すんごい敵とばっかり戦ってるのね」
アガット「感心してる場合じゃねーだろ！ ティータのやつが！」
ティータ「はうぅ〜！」
アガット「くそっ！ ティータを離しやがれ、このばけものぉぉぉ！」
突っ込むアガット。ヒュンヒュンヒュン触手の音。バコッ！っとアガットはじかれる。
アガット「ぐわっ！ くそぅ、近づけねぇ」
エステル「ねぇ、スキを見て、なんとかティータを助け出せない？」
ガッシュ「無理だ。あの無数の触手。迂闊に手を出すのはマズい」
ガルバラン「これからは、ガルバランの時代が始まるのだ！ その手始めに、我が力を思い知らせてくれる！」
ドドドドと地鳴りのような足音、遠くから近づいてくる。
ヨシュア「この音は、いったい……」
エリカ「うおぉ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜っ！」
エステル「あの人は……エリカさん⁉」
エリカ「ティータァァァァ、今助けるわーーーーーっ！」
ガルバラン「な、何やつ⁉」
エリカ「エリカァーーー、インパクトォーーーーーーーッ！」
ガルバラン「ぐあーーーーーーーーっ！」
ど派手な爆発音。
アドル「すごい……あのガルバランを、一撃で葬るなんて」
ナレ「説明しよう！ エリカインパクトとは、愛する一人娘ティータにピンチが訪れた時のみ出せる、エリカの究極奥義である！ ティータへの異常なまでの愛を強大なエネルギーに変え、核分裂に匹敵する爆発を起こすのだ！」
エステル「なに説明してるのよ！ っていうかなんなのその技は！」
エリカ「ティータ、無事⁉ しっかりして！」
ティータ「お母さん……？」

エリカ「あぁ、ティータ！　よかったわぁ〜！　もうぎゅ〜ってしちゃう！　ぎゅ〜！」

ティータ「く、苦しいよぉ、お母さん……えへへ」

アイシャ「あの人って……ティータのお母さん？」

エステル「そ。ティータがだーい好きなの」

ヨシュア「だからって、究極奥義はやり過ぎだと思う……」

エリカ「さぁティータ、行きましょう」

ティータ「え？　でも、みんなと一緒に」

エリカ「行・き・ま・しょ・う！」

アガット「お、おい！」

エリカ「シュタッ！　シュパパパパパ！」

ティータ「あれ〜〜〜〜」

ナレ「エリカはティータを連れて、目にも止まらぬ速さでいなくなった」

一同「…………」

■第3章

○門の前

オリビエ「第3章。食い気or色気」

ナレ「ティータと別れ、奇巌城を目ざし旅を続けていた一行の前に、巨大な門が立ちはだかった」

エステル「でっかいわねー！」

ガッシュ「周りは山だし、この門をくぐり抜けるしかなさそうだな」

エステル「ん？　ねぇ、門のところ、なにか文字が書いてある」

ヨシュア「本当だ。見たことのない文字だけど……」

アイシャ「アドルなら分かるんじゃないかしら？」

ナレ「アドルは門に近づき、文字を読んだ」

アドル『汝の色気を見せよ。さすれば道は開かれん』

アイシャ「さっすがアドル、博学よね……って、色気？」

エステル「色気ってあの、あは〜ん、とか、うふ〜ん、っていう、あれ？」

ナレ「アドルはうなずいた」

アガット「おい、なんか読み間違えてんじゃねぇのか？」

ガッシュ「いや、アドルの考古学の知識は確かだ」

アイシャ「もう〜、しょうがないわね〜」

エステル「アイシャ……どうしたの？」

アイシャ「本当は〜、こんなところで見せつけたくはなかったんだけどぉ、色気が必要だって言われたから仕方なく〜」

ヨシュア「いや、まだ誰も必要だとは言ってないけど……」

アイシャ「それじゃ行くわよ〜ん。うっふぅ〜ん★」

それっぽいＳＥが鳴る。

ナレ「門は、反応しなかった」

アイシャ「お、おかしいわね。それじゃもう一度！　あっはぁ〜ん★」

それっぽいＳＥが鳴る。

ナレ「門は、まったく微塵も反応しなかった」

アイシャ「う、うるさいわね！　なによそのカンに触るナレーションは！」

アガット「ま、小娘は放っておくとしてだ……おい、エステル」

エステル「え？　あ、あたし？　いやいやいやいや、無理無理無理無理！　色気とか全然ないし！」

ヨシュア「だよね」

エステル「……そこであっさり納得されるのも、傷つくんですけど」

ガッシュ「とはいえ、他に手はないしな」

アドル「エステル」

ナレ「アドルは、すがるような目でエステルを見た」

エステル「わ、わかったわよ。やるだけやってみる。……う、うっふ〜ん」

ちーん、とかＳＥ。

ナレ「門は、当然微動だにしなかった」

エステル「分かってはいたけど……やっぱりショックだわ」

ガッシュ「万策尽きたか……」

ボロン、とリュートを鳴らす音。

オリビエ「やぁ！　お困りのようだね、諸君」

エステル「オリビエ！」

アイシャ「またあんたなの〜？」

アガット「っつーか、まだ操られてるんじゃねぇだろう

な……」

オリビエ　「いやいや、さすがに目が醒めたよ。誰かさんがいきなり出した奥義のおかげでね！　それよりも、色気なら、この僕に任せてくれたまえ！」

エステル　「任せてくれたまえって……だってオリビエ、男じゃない!?」

オリビエ　「色気とは！　男女問わず、セクシィな人物にこそふさわしい。そう、この僕のように！」

アガット　「おいオリビエ、ご託はいいから、とっとと始めろ」

セクシーな声で読み上げてください。

オリビエ　「お安い御用さ。では……『そこの門を開けておくれ、愛しい仔猫ちゃん』」

ギギギ……！　と門が少し開く音。

アガット　「扉が、動きやがった!?」

エステル　「あ、あんですってぇ～……！」

オリビエ　「ふふ～ん、どんなもんだい！」

アイシャ　「なんでよ～！　納得いかなーい！」

エステル　「色気で、オリビエに負けるなんて……がっくり」

ガッシュ　「だが、少ししか開いてないぞ。これじゃ、人ひとり通れねえ」

オリビエ　「ふ～む。ならばここは、最後の手段しかあるまい！」

ヨシュア　「最後の手段？　それはいったい？」

オリビエ　「それはだね……ムフフ」

ヨシュア　「え？　あの、オリビエさん、どうして僕をなめ回すように見るんですか……」

オリビエ　「さぁ来たまえ、ヨシュア君！」

ヨシュア　「えっ、あの！　ちょっと！」

ナレ　「オリビエはヨシュアを連れて、草むらへと消えていった」

エステル　「あっ、ヨシュア！　ま、まさか……」

アドル　「いったい何をするつもりなんだ？」

×　×　×

ナレ　「それから、しばらくして」

オリビエ　「や～お待たせお待たせ」

アイシャ　「まったく、いつまで待たせて……って！」

ナレ　「オリビエは、見目麗しい少女を連れていた」

※エステル以外、ヨシュアが女装した姿と気づいてません。

アイシャ　「なになに、誰なのその美少女！　うわー、かわいー！」

ナレ　「アドルは、目を見開いて少女を見つめている。どうやら好みのタイプのようだ」

アドル　「こ、こら、勝手なことを言うなよ」

アガット　「てめぇ、ティータの時みたいにさらってきたんじゃ……」

オリビエ　「ノンノンノン！　そんなんじゃないよ」

エステル　「はぁ……やっぱりね。よくOKしたわね、ヨシュア」

エステル以外　「えっ!?」

ヨシュア　「うん……」

アイシャ　「ほ、本当に、ヨシュア!?」

ガッシュ　「これは……驚いたな」

オリビエ　「さぁ、ヨシュア君、手はず通りに！」

ヨシュア　「本当に、やるんですか？」

オリビエ　「これも、みんなのためさ！　さぁ早く！」

ヨシュア　「……はぁ」

ヨシュアの足音。

ナレ　「ヨシュアは、門の前に立った」

ヨシュア　「（無理して女の子っぽい声で）う、うっふ～ん」

ナレ　「ヨシュアは、はいていたスカートを、たくし上げた！」

アガット・ガッシュ・アドル　「おお～！」

重々しく門が開く音。

ガッシュ　「何と、門が開いた！」

オリビエ　「YES！　パーフェクトッ！　やはり僕の作戦は完ぺきだ！」

エステル　「なんで……なんでヨシュアの女装姿で開くのよ～！」

アイシャ　「納得いかない、納得いかないわーっ！」

○荒れ地

ナレ　「一行は、門をくぐり、中に入った」

オリビエ　「すぐに着替えてしまうなんて、残念だなぁ。

僕はずっとあのままの姿でよかったんだよ、ヨシュアきゅん★」

ヨシュア　「断固お断りします。……だいたい、あの衣装はどこから出してきたんですか」

オリビエ　「ひ・み・つ★」

エステル　「ん？　くんくんくん」

ヨシュア　「エステル？　どうしたの？」

エステル　「いいにおいがする。こっちよ！」

ぐつぐつと鍋が煮える音。

ティータが、お料理をしている。

ティータ　「（鼻歌）ふん、ふん、ふん～♪」

足音がして、エステルたち現れる。

エステル　「ティータ!?」

ティータ　「あ、エステルお姉ちゃん！」

エステル　「ティータがお料理してたのね！　どうりでいいにおい……」

アガット　「（食い気味に）ティータぁぁぁぁ！」

オリビエ　「ティータくぅぅぅん！」

アガット、オリビエ、ティータに駆け寄る。

ナレ　「突然、ティータの背後から、エリカが現れた」

エリカ　「あんたたちは、消えなさぁぁぁぁい！　フン！」

カコーン！　とバットでボールを打つ音。

アガット　「ぐわぁ～～～～～～～～」

オリビエ　「なんで僕まで～～～～～～～～～」

キラーン、とお星さまになるアガット。

ティータ　「お母さんひどいよ！　アガットさんにも、お料理食べてもらおうと思ったのに！」

エリカ　「あの赤毛野郎に食わせるものなんて、パン屑ひとつないわ！」

エステル　「相変わらずだな～、あはは……あとオリビエにも少しは触れてあげてね」

ダン　「いったい、なんの騒ぎだい？　おや、君たちは……」

アイシャ　「アドル!?」

アドル　「僕は後ろにいるよ」

アイシャ　「へ？　あれほんとだ」

ヨシュア　「ダンさん！」

アイシャ　「えっと、今現れたこの人、エステルのお知り合い？」

エステル　「うん。ティータのお父さんよ」

ガッシュ、マジトーンで。

ガッシュ　「お、おおお父さん……初めまして、ガッシュと申します」

アドル　「え？　僕はアドルだよ」

ガッシュ　「なにぃ！　くそっ、俺としたことが……」

ダン　「ややこしいことになってきましたねぇ」

エステル　「ダンさんたちも、この世界に来てたんですね」

ダン　「ええ、エリカさんと一緒にね。まあ、立ち話もなんですし、みなさん、よかったら食事でもどうですか？」

エステル　「いいんですか!?　やった～★」

×　×　×

ナレ　「こうして一行は、食事を取ることにした」

エステル　「あったかいシチューだー！　おいしそ～！いただきまーす！」

アイシャ　「ん～、おいしい！　はぁ、この世界に来て、はじめてまともな食事にありつけたわ」

ガッシュM　「可憐な上に料理もうまい……やばいぞ、俺。まじでやばいぞ」

ナレ　「アドルは、黙々と食べている」

アイシャ　「ちょっとアドル。少しは何かいいなさいよ」

アドル　「え？　いや、あまりにおいしいから、夢中になって食べちゃって」

ティータ　「お代わりまだありますから、たくさんどーぞ」

キラッ！　と目を光らせるエリカ。

エリカ　「（ひそひそ声で）ティータ、あの男には気をつけなさい」

ティータ　「どうして？」

エリカ　「ご覧なさい、あいつは……赤毛よ！　赤毛の男に、ロクなのはいないわ！」

ティータ　「で、でも、アドルさんって悪い人じゃないと思うんだけどなぁ……お父さんにどことなく似てるし」

エリカ　「確かに……声はうりふたつなのよねぇ」

×　×　×

ダン　「へぇ、アドルさんは冒険家なんですか。若い頃の僕と似てるな」

アドル　「ダンさんもですか？」

ナレ　「アドルは、スプーンを置いてダンを見つめた」

ダン　「僕の場合は、遊撃士という仕事ですから、厳密な意味での冒険家ではないですが。各地の秘境を旅したりもしたんですよ」

アドル　「そうなんですか」

ナレ　「アドルは深くうなずいた」

ダン　「アドルさんはどんなところに？」

アドル　「僕は、洞窟に入っていったり、塔に上ったり、浮遊大陸に飛んでいったりですね。あぁ、牢屋に入れられた時には、友人が壁を壊して助けに来てくれたりもしました」

ダン　「へぇ、それは楽しそうだ！」

ナレ　「アドルは、大きく目を見開いて、愉快そうに微笑んだ」

ダン　「あ、いま目を見開いたのは、アドルさんじゃなくて、ダンの方です」

ナレ　「あっ！　す、すいません……いや、声がそっくりなんで、つい」

アドル・ダン　「はっはっは！」

×　×　×

ティータ　「うぅ〜、声だけ聞いてると、どっちがお父さんだか分からないよ〜」

エリカ　「妻の私でも、迷うわ……」

エステル　「ところで、ここに来る途中に、ヘンな門があったでしょう？　色気がどうとか」

ティータ　「あ、うん。あったよ」

アイシャ　「どうやって開けたの？　も、もしかしてティータちゃんが……？」

ガッシュM　「イケる。この可憐さならイケる……」

エリカ　「あぁ、あの門なら、私が開けたわよ」

エステル　「うっそ、エリカさんが!?」

エリカ　「なによその意外そうな顔は。仕方ないわね、実演してあげるわ。ティータ、ちょっとだけ目をつぶって、耳をふさいでなさい」

ティータ　「う、うん、わかった。ぎゅ〜っ！」

ナレ　「ティータは、目を閉じて耳をふさいだ」

ヨシュア　「どうして、こんなことを？」

エリカ　「教育上よろしくないからよ。それじゃ、行くわよ。まず最初は、こういうポーズをして……」

エステル　「ちょっ、エリカさん!?」

ヨシュア　「そ、そんな、すごいこと……！」

エリカ　「それから……『どうしたら開けてくれるのかしら？　ほら、言ってごらんなさい』」

アイシャ　「わ、わ、わ……！」

エリカ　「これはどう？　あらぁ、もっとなの？　うふふ、欲張りサンね。いいわ。じゃぁ、こんなのはどうかしら？　満足？　ふふ、こんなこともしちゃうわよ。気に入った？　うふふ、じゃぁこれならどうかしら？　いいのよ、我慢しないで、さぁ、開けてちょうだい、あたしのために……」

エリカさんフェードアウト。かぶせてヨシュア&ガッシュ。

ヨシュア　「うわっ、あんなことまで！　と、止めた方が良いんじゃないですか、ガッシュさん」

ガッシュ　「可憐だ」

ヨシュア　「カレンダー？　なに言ってるんですか!?」

ガッシュ　「見てみろ。母親の言いつけを守ってあんなに必死に、ぎゅ〜っと目をつぶって、耳をおさえてるあの手……可憐だ……可憐すぎる！」

ヨシュア　「ここまでメロメロにするなんて……ティータ、恐るべし」

■第4章

アイシャ　「第4章。お風呂でポン！」

○温泉場近く

ナレ　「一行は、エリカとダンを仲間に加え、奇巌城を目指して旅を続けていた」

アイシャ　「なんだかこのあたり、蒸し暑いんですけど〜」

ガッシュ　「近くに火山でもあるんだろうな」

エステル「ん？　くんくん……なんか、ヘンな匂いがしない？」

ダン「おや？　この匂いは、ひょっとして……」

ティータ「お父さん、この匂いがなんなのか、わかるの？」

ダン「ああ。この先に、みんなが喜ぶものがあると思うよ」

ナレ「一行がさらに先に進むと、石造りの建物があり、その中には、もうもうと湯気を出す温泉があった」

エステル・ティータ・アイシャ「うわ～！」

ダン「やっぱりね。匂いで、そうじゃないかと思ったんだ」

エステル「お風呂、お風呂～♪　こっちに来てから、まともに水浴び出来なくて、もーイライラしてたのよね★」

ティータ「お父さん、どうしてこんなに立派な建物があるの？」

ダン「温泉が湧いた場所に、雨風をしのげるように建物を作った、ということじゃないかな」

ナレ「建物を調べていたアドルは、どうやら反対側にもうひとつ風呂があるようだと伝えた」

エリカ「ちょっといいかしら？　こんな場所に温泉があるなんて、いくらなんでも都合良すぎない？　しかも二つ」

ナレ「いや、私にそう言われましても……」

エステル「もう、細かいことは気にしない♪　お風呂入りましょ、お・ふ・ろ！」

ヨシュア「僕たち男子は反対側に行きましょうか。エステルたちは、こっちを使って」

エステル・ティータ・アイシャ「はーい！」

○温泉場・女風呂

ナレ「こうして一行は、温泉につかることにした」

エステル「はーいティータ、目をつぶって～」

ばしゃーっとお湯をかける音。

ティータ「ふわ～」

エステル「はーいOK。……ん？　アイシャ、どうして入らないの？」

アイシャ、少し離れたところから。

アイシャ「ひ、人前で肌をさらすだなんて……はしたないわ」

エステル「も～、なに言ってるのよ。お風呂、気持ちいいわよ～」

アイシャ「けど……」

エステル「ええい、めんどくさい！」

エステル、ぺたぺたとアイシャの元まで歩いてくる。

アイシャ「な、なにをする気⁉」

エステル「ほら、脱いだ脱いだ！」

アイシャ「う、うわっ！　やめ、やめてエステル！」

エステル「ふふふ～、よいではないかよいではないか！」

アイシャ「いやぁ～！」

ティータM「ああいう時のエステルお姉ちゃん、本当に楽しそうだよね……」

ぺたぺたと二人分の足音。

エステル「ほら、ここ座って。いま、背中流してあげるから」

エステル、お湯をかける。

エステル「うわ～、アイシャの肌ってすっごくキレイね。いいな～」

アイシャ「あ、あまり見ないでよ。恥ずかしい……」

エステル「え～、なんで？　こんなにキレイなのに」

ごしごしと洗う音。

エステル「（鼻歌）ふんふんふ～ん♪」

アイシャ「……あなたは、私が公女だって知ってるのよね？」

エステル「あーうん。アルタゴ公国だっけ？」

アイシャ「そう。……でも、普通に話したり、こうして、ふ、服を脱がせたりするのね……」

エステル「ゴメンね、私、かたっ苦しいの苦手で。怒った？」

アイシャ「別に怒ってはないわ。ただ……ちょっと珍し

いなって思っただけ。私が公女だってわかると、途端に口調を変える人ばかりだったから」

エステル「でも、そういうのってイヤじゃない？」

アイシャ「ええ……よく分かるわね」

エステル「私、親友にお姫様がいるから。あ、今じゃ女王様候補か。ほら、前にこの世界で一緒に戦った時にいたでしょ？ クローゼっていう子」

アイシャ「うん、覚えてる。……私なんかより、ずっと、らしかった」

エステル「ところが、ああ見えてクローゼっておてんばだったり、強情だったりするんだから」

アイシャ「そうなの？」

エステル「ま、そういうところ含めて、私は大好きなんだけどね。もちろん、アイシャもよ」

アイシャ「なっ……！　か、からかわないでよ」

エステル「あははっ！」

ざばぁ、とお風呂から上がる音。

エリカ「先上がるわよー」

ティータ「あ、ダメだよお母さん！　ちゃんと暖まらなくちゃ」

エリカ「お風呂なんて、汗とホコリを洗い流せればいいのよ。それに、重要なのは風呂上りの一杯。あー、飲みたい。キーンと冷えたやつを、グイッと！」

ナレ「エリカは、風呂上がりの一杯をこよなく愛していた。特にビールをである。いやぁ、あれは確かにうまい！」

エリカ「そうそうそう！　ってちょっと待ちなさい。なんであんたが解説してるのよ？　あんたは、アドルのナレーションでしょうが？」

ナレ「ナレーションは、どこにでもついていきます」

エリカ「だからついていくのは男湯だっつーの！」

○温泉場・男風呂

湯船に浸かるガッシュ。

ガッシュ「ふぅ……久しぶりの風呂は生き返るな」

ヨシュア「ダンさんも、一緒に入ればよかったのに」

アドル「見張りに立つからいいって。……もっとも、僕と一緒に入ると、聴いてる人が混乱するから、とも言ってたけど」

ヨシュア「大変なんですね、いろいろと」

オリビエ「いやぁ、本当にね」

ヨシュア、ちょっと驚く。水がばしゃっと跳ねる音。

ヨシュア「オリビエさん⁉　いつの間に……」

ボロン、とリュートを鳴らす音。

オリビエ「この温泉は美容にもいいらしいからね。ここはぜひ、入っておかなくてはと思ってね！」

ボロン、とリュートを鳴らす音。

ヨシュア「……どうでもいいですけど、お風呂に楽器持ち込んだら、痛みますよ」

アドル「ゆかいな人だな、オリビエさんは」

ヨシュア「………」

アドル「ん？　どうしたんだい？」

ヨシュア「いや、アドルさんの動作に、ナレーションが入らないのって、なんか新鮮だなと思って。いったいどこに行ってしまったんでしょう？」

ガッシュ「女子どもの風呂にいるぞ」

オリビエ「なるほどなるほど。って、どうして君はそれが分かるんだい？」

ガッシュ「人造妖精を放ってるんでね。状況は逐次伝わってくる」

オリビエ「ほー！　妖精を使ってのぞきとは、なかなかの高度テクだね」

ガッシュ「のぞきでじゃねぇ！　見張りだ！」

オリビエ「見張りねぇ。ちなみに～、エステル君、ティータ君、アイシャ君のうち、誰が一番ナイスバディ？」

ガッシュ「ふむ、その中ならエステルだな」

ヨシュア「ちょっ⁉　やっぱりのぞいてるんじゃないですか！」

オリビエ「いやいや、君はなかなかのむっつりさんだね」

ガッシュ「ち、違う！　俺はチビの事が心配で！」

オリビエ「ほほう～、ガッシュくんのお目当てはティータ君だったのか～」

アドル&ヨシュア「なるほど～」

ガッシュ「だから納得するな！　だ、だいたい、女を追いかけまわすのは変態演奏家の専売特許だろうが！」

オリビエ「失敬な！　僕は美しいものなら男女を問わない！　例えばそう、そこにいるヨシュア君！」
ヨシュア「は、はい!?」
オリビエ「そのつややかな、玉のような肌……幼い頃から鍛え抜かれ、引き締まった身体……これもまた美！　僕は、ヨシュア君でも全然ＯＫ！」
ヨシュア「僕はＮＧです！」
ガッシュ「男にうつつを抜かすなど、まるで理解できん……」
アドル「ガッシュは、ティータのように小さい女の子が好きなんだね」
ガッシュ「なにさらっとすごい発言してるんだアドル！」
ざばぁーーん！　と風呂の中からアガットが出てくる。
アガット「ティータァッ！」
オリビエ「うわあっ！　ア、アガット君!?　いつの間に……」
ヨシュア「あなたが言わないでください」
アガット「ティータ、ティータはどこだぁ！」
ヨシュア「落ち着いてください、アガットさん！」
アガット「ティータァ！」

がしゃりと、風呂場の壁が崩れる音（石造りの壁です）
ナレ「その時、風呂場の壁が壊れた」
アドル「ドギ！？」
ナレ「違います、エリカです」
エリカ「策敵モード・オン！　対象、赤毛９８％！……発見ッ！　ファイトぉ〜いっぱ〜つ！　飛んでけえ〜〜っ！」
かきーん！　とホームランの音。
アガット「またしても〜〜〜〜！」
ガッシュ「なぜ俺まで〜〜〜〜〜！」
キラーンと星になるふたり。
エリカ「成・敗！」
ヨシュア「あ、あの、エリカさん……タオルも無しで男湯に入るのは、その……」

■第5章

アドル「第5章。そんな理由で呼び出され」

○奇巌城・中心部

ナレ「温泉につかりさっぱりした一行は、ついに奇巌城に到着した！」
エステル「脱力する状況説明、ありがとう……」
ヨシュア「でもおかしい。前に来たときと違って、誰もいない」
アグニージャ「ククククク……」
緊迫感のあるＢＧＭ流れはじめる。
エステル「誰!?」
アグニージャ「よくぞここまで来た……と言っておこう。だが、貴様たちの旅はここで終わる。そう、死という終焉を迎えるのだ！　この、アグニージャによって！」
じゃーん！　と派手なＳＥ。

エステル「…………」
アドル「…………」
以下、ひそひそと話します。
エステル「……ねぇ、アドルさん」
アドル「うん？」
エステル「あれ、アドルさんが戦ってきた敵じゃないんですか？」
アドル「いや、あんな竜は見たことないな。そっちの世界の敵じゃないのか？」
エステル「知らないですよ、あんなの！　そりゃ、確かにレグナートっていう竜の知り合いいるけど、名前違うし」
ヨシュア「どうしよう、ここは適当に驚いた方がいいのかな？」
エリカ「あんなのほっとけばいいじゃない、めんどくさい」
アグニージャ「おまえらー！」
どしんどしんと暴れるアグニージャ。

アグニージャ「『破壊神』や『赤き竜』という異名を持つ、このアグニージャ様を知らないとはどういうことだー！」

エステル「とはいえ……知らないものは知らないし」

エリカ「知らない相手じゃ、なーんか盛り上がらないのよね」

アイシャ「だいたいさっきから、出てくる悪役みーんな同じ声じゃない」

ティータ「み、みんな、そんなに言ったらかわいそうだよ。あの竜さんだって、一生懸命やってるんだから……」

アグニージャ「好き勝手いうなぁーーーーー！」

どしんどしんと暴れるアグニージャ。

アグニージャ「もう怒った。完全に怒った！　やはり貴様らは、完ぺきに滅ぼさなければいけなかったのだ！　あーもうやるよ、俺はやるよ！」

ヨシュア「いけない！　怒りのあまり、キャラ設定を忘れかけてる！」

アドル「ああなっては、手のつけようがないぞ」

オリビエ「なら、ここは僕に任せてくれたまえ」

エステル「オリビエ！」

オリビエ「この僕の華麗なリュートの音色で、見事怒りを静めてみせよう！」

ボロン、とリュートを弾く音。

オリビエ「それでは一曲。あー♪」

アグニージャ「でこピン」

ペチ、という間抜けな音と共に飛ばされるオリビエ。

オリビエ「今回こればっかり〜〜〜〜〜〜〜〜」

キラーン、と星になるオリビエ。

エステル「オリビエ……あなたの尊い犠牲は、ムダにはしないわ！」

ヨシュア「いや、あの様子だと、多分また戻ってくると思うんだけど……」

駆け寄る足音。

アガット「お前ら、無事か！」

ティータ「アガットさん！」

エリカ「チッ！　まだ生きてたか」

アガット「こりゃまた大物が相手だな」

ガッシュ「存分に腕が振るえるってもんだ」

アイシャ「ガッシュも戻ってきたのね！」

アガット「いくぜ！　てやーーーーーーーーっ！」

ガキン！　とアガットの重剣を弾く音。

アガット「くっ！」

アグニージャ「その程度の剣で、このウロコを貫けるとでも思ったか！」

ガッシュ「はあっ！」

ガキン！　とガッシュの斧を弾く音。

ガッシュ「なに!?」

アグニージャ「おお、カユいカユい。では、今度はこちらから行くぞ。ふん！」

ぶぅん！　と腕を振るうアグニージャ。

アガット「ぐあっ！」

ガッシュ「ぐっ！」

アイシャ「ガッシュ！」

ティータ「アガットさん！」

エステル「このままじゃ、みんなやられちゃうわ！」

ヨシュア「どうすれば……」

すちゃ、と一歩前に出る足音。

ナレ「アドルとダンが、一歩前に出た」

エステル「え……」

ダン「では、行くよ、アドル君！」

アドル「はい、ダンさん！」

駆け出す足音。

アグニージャ「ちょこざいな。２人がかりで来たところで、蹴散らしてくれる！」

ダン「烈波無双撃！」

ウロコに弾かれる音。

アグニージャ「効かぬ！」

ダン「今だ、アドル君！」

アグニージャ「なにっ!?」

アドル「はあーーーーーっ！」

ずばっ、と斬りつける音。

アグニージャ「ぐあっ！」

ヨシュア「うまい！　ダンさんが作ったスキを活かして、アドルさんがうろこのない顔面へきりつけるとは！」

エステル「なるほど、ああやればいいのね。アイシャ！」

アイシャ「オーケー！」

アグニージャ「ぐ、ぐぬぬ……！」

駆け出す足音。

エステル・アイシャ「はぁーーーっ！」

アイシャ「スプレッドライン！」

エステル「真・桜花無双撃！」

矢が刺さる音と、打撃系の音。

アグニージャ「ぐおっ！」

エステル「どんなもんよ！」

ダン「おお！　さすがはカシウスさんの娘だ」

アグニージャ「ぐあああ！　許さぬ……許さぬぞ！」

エリカ「ティータ、チャージはまだなの!?」

ティータ「あと、もうちょっと……！」

ダン「いけない、気づかれた！」

アグニージャ「そこかぁ！」

オリビエ「スナイプショット！」

パンパン！　と銃弾の音。

アグニージャ「ぐあっ！」

ティータ「オリビエさん！」

ヨシュア「やっぱり戻ってきた……」

オリビエ「さぁ、いまだティータ君！」

ティータ「は、はい！　照準よし、エネルギーチャージよし……お母さん！」

エリカ「ラッセルファミリー砲・発射！」

どかーんと波動砲みたいな音。

アグニージャ「ぐあああああ……そんな、そんな技で負けるとはあああああああああっ！」

爆発音。

エステル「やったぁ！」

アイシャ「今の技は、いったい……」

エリカ「私たち家族の愛の力を集結した最終奥義、『ラッセルファミリー砲』よ！」

アガット「いつの間にそんな技作りやがった？」

エリカ「家族じゃないあんたなんか、仲間に入れてあげなーい！　ベロベロベー！」

アガット「入りたくねえよ、そんな恥ずかしい技！」

オリビエ「やれやれ、これで一件落着か」

ガッシュ「……いや、そうでもないらしい」

エステル「えっ？」

ヨシュア「敵を倒したのに、元の世界に戻る気配がない。確かにおかしいですね……」

ジョー「くくくく……よくぞここまでたどり着いた」

アドル「誰だ!?」

コツ、コツと足音をバックに。

ジョー「お前達は、我が手のひらの上で踊っていたにすぎん。そう……アドル、エステル。お前達の運命、我が手中にあるも同然……」

エステル「あなたは……一体誰なの!?」

足音止まる。

ジョー「教えてやろう。我が名はジョー！　ギャラクシー・ヴァン・ジョーだ！」

じゃーん、と派手なSE。

この部分だけ、役から外れて。

アドル「……銀河さん？」

エステル「銀河さんですよね？」

ヨシュア「あの、そのネーミングセンスはちょっと……」

オリビエ「え、そう？　俺結構好きだけどなー」

アイシャ「いや、ないです、普通に」

ジョー　「なんなの！　人がせっかくかっこよく登場したのに、なんなのよ、あんたたちのその態度は！」

エリカ　「まあまあ、落ち着いてください銀河さん」

ジョー　「銀河さんじゃなくて、ヴァン・ジョー！　だいたい、人を毎回毎回悪役にしたてあげたあげく、暗闇の中でずっと待たせやがって！　そのくせあっさり倒してハッピーエンドなんて！」

アドル　「いや、そう言われても……台本がそうなってるわけで」

ジョー　「そう言って皆はさ、ずーっと日の当たる場所でやっててさ！　ずるい！　もー許せん！　だから俺がみんなをこの世界に呼んだんだ！」

一同　「えっ？」

ここから役に戻って。

アイシャ　「ちょ、ちょっと待って⁉　そんな理由で、私たちをこの世界に呼んだの⁉」

アガット　「完全にとばっちりじゃねーか！」

ジョー　「うるさーい！　とばっちりだろうがなんだろうが、俺が決めたからそうしたの！」

アドル　「子供じゃないんだから……」

ジョー　「はっ！　じゃあいいよ、俺の実力を見せてやるから！」

突然、ナレーション口調で。

ジョー　「アドルは、突如としてエステルたちを裏切った」

アドル　「えっ⁉　か、身体が勝手に……！」

エステル　「ア、アドルさん？」

ジョー　「アドルは、エステルに向かって剣を振るった」

ぶん、と剣を振るう音。

エステル　「きゃっ⁉」

アドル　「避けて、避けてくれ！」

ぶんぶん、と剣を振るう音。エステル、棒で剣を受け止める。

エステル　「アドルさん……！」

アドル　「身体の自由が、きかないんだ……！」

ジョー　「フフフフ……どうかね、私の力は？　ナレーション口調で読むことで、世界のあらゆる摂理をねじ曲げる！　この力には誰も逆らえまい」

ヨシュア　「アドルさん、すみません！　やあっ！」

ジョー　「ヨシュアの剣は、アドルによってはじかれた」

キン！　とヨシュアの剣を弾く音。

ヨシュア　「ああっ！」

ジョー　「ムダだと言っただろう」

ナレーション口調で。

ジョー　「アドルは、ヨシュアたちを次々となぎ倒していった」

アドル　「やめろ……！」

ぶんぶん、と剣を振るう音。

※やられセリフは、タイムラグなく立て続けにやっつけたことにして、まとめて出しちゃう感じで。

ヨシュア　「うあっ！」

アガット　「ぐあっ！」

アイシャ　「きゃあ！」

ガッシュ　「ぐっ！」

ティータ　「ああっ！」

オリビエ　「ぐあっ！」

ダン　「ぐうっ！」

エリカ　「きゃっ！」

全員が倒れる音。

エステル　「ヨシュア！　みんな！」

ジョー　「フフフフフ……あっけないものだな」

エステル　「許さない！　絶対許さないんだから！」

ジョー　「減らず口もそこまでだ。では、最後の仕上げを……」

ナレーション口調で。

ジョー　「アドルは、エステルにトドメを刺した」

エステル　「ッ⁉」

カチカチ、と剣がなる音。アドル、必死で剣を自分の力で留

めている。

アドル　「く……ぐぅ……！」
エステル　「アドルさん！」
ジョー　「自らの意志で、剣を止めた⁉　我が力に逆らえるというのか⁉」
アドル　「ジョー……思い出してくれ……！」
ジョー　「なにを……」
アドル　「僕の冒険は、いつもあなたと共にあった……あなたのナレーションと共に……！　僕たちは、共に戦ってきた、仲間じゃないか……！」
ジョー　「な、なか、ま……」
アドル　「口べたな僕を……いつも支えてくれて……。あなたがいなかったら、僕は世界を救うことなど出来なかった！」
ジョー　「アドル……」
アドル　「思い出してくれ……あなたの中に眠る、良き心を！」
ピカーッ！　と光輝く感じのSE。
エステル　「剣が、光ってる……！」
ジョー　「この輝きは……！」
アドル　「ドラゴンスレイヤー！！」
ジョー　「まさか……！　この世界のドラゴンスレイヤーは、もう存在しないはず！」
アドル　「ドラゴンスレイヤーは、ただの剣ではない」
エステル　「集まった戦士たちの希望、それがドラゴンスレイヤーの、真の姿なのよ！」
かちゃり、と剣を握る音。
ジョー　「やめろ……やめてくれ！」
アドル　「エステル」
エステル　「アドルさん」
2人　「はあーーーーーーーーーっ！」
ぶん！　と剣を振り下ろす音。
ジョー　「うわあーーーーーーーーーっ！」
光が広がっていく感じのSE音。
ジョー　「う、ぅん……」

エステル　「気がついたわ！　よかったー」
ジョー　「私は……そうか、アドルに切られて、気を失っていたのか」
アイシャ　「それにしても、斬りつけられたのに無傷とは、ドラゴンスレイヤーってどんな剣よ」
ヨシュア　「多分、ジョーさんの、悪しき心の部分のみを切ったんだと思う」
ジョー　「私の中の弱い心が、ザナドゥの力と共鳴し、このような事態を引き起こしてしまったようだ……すまない」
アドル　「もういいんです」
ジョー　「アドル……ありがとう。これからも私は、君と共にいよう。君の冒険が続く限り」
アドル　「はい」
エステル　「それじゃ、私たちを元の世界に戻してくれる？」
ジョー　「もちろんだ」
エステル　「やったぁ！」
アガット　「やれやれ、一件落着ってところだな」
ガッシュ　「これでようやく、元の世界に戻れる」
オリビエ　「僕を待つ美女たちが大勢いる、元の世界がやはり恋しいねぇ」
ティータ　「アドルさんとジョーさん、仲直り出来てよかったです」
エリカ　「……いや、そもそもアイツがいなかったら、私たちこの世界に呼ばれなくて、フツーに暮らせてたんじゃない？」
ダン　「はっはっは！　相変わらずエリカさんは辛辣だなぁ」
エステル　「それじゃぁ、アドルさん、アイシャ、さようなら」
ヨシュア　「みなさんお元気で。もう、会うことはないと思いますけど」
アイシャ　「分からないわよ～？　また、どっかの誰かが、こんなのイヤだー！　って駄々をこねるかも」
ティータ　「くすくす……わたし、楽しかったです、だからまた会えるなら、呼ばれてもいいかも」
ガッシュ　「名残は尽きないが……元気でな、おチビさん」
ティータ　「あ、はい。ガッシュさんもお元気で」
ガッシュM　「も、も、も、持ち帰りたいぜ」
エリカ　「シャーッ！　新たなる敵発見！」
ダン　「エリカさん、どうどう」
アガット　「あばよ」
オリビエ　「ごきげんよう、諸君！」

アドル「さようなら、エステル、みなさん」

ナレ「アドルは優しく微笑み、手を振った。その姿が、光に包まれる。それを見るエステルたちも、やがて光に包まれ――戦士たちは自らの世界へと帰っていった。アドル＝クリスティンと、エステル＝ブライトの物語は、いったんここで終わりを告げる。彼と彼女の新しい物語は……また、別の機会に」

■スタッフロール

ナレ「ドラマCD、イース&空の軌跡バーサスヴァン・ジョー」

ナレ「出演」

草尾ナレ「アドル・クリスティン：草尾毅」

神田ナレ「エステル・ブライト：神田朱未」

斎賀ナレ「ヨシュア・ブライト：斎賀みつき」

三上ナレ「アイシャ＝サリ＝エドナス：三上枝織」

今野ナレ「ティータ・ラッセル：今野宏美」

雪野ナレ「エリカ・ラッセル：雪野五月」

草尾ナレ「ダン・ラッセル：草尾毅」

近藤ナレ「アガット・クロスナー：近藤孝行」

子安ナレ「オリビエ・レンハイム：子安武人」

佐藤ナレ「ガッシュ：佐藤拓也」

銀河ナレ「ダーム：銀河万丈」

銀河ナレ「ガルバラン：銀河万丈」

銀河ナレ「アグニージャ：銀河万丈」

銀河ナレ「ギャラクシー・ヴァン・ジョー：銀河万丈」

銀河ナレ「ナレーション：銀河万丈」

銀河さん以外全員「銀河さん、多すぎ～～～～～～～」

おわり

FALCOM MAGAZINE SPECIAL プレゼント!!

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！

今月のプレゼントはこちら!!



① 2名様

❶『みんな集まれ！ファルコム学園』新久保先生サイン入り台本（第1話～4話）

アニメ『ファルコム学園』からキャストが実際に使用したを台本を３ヶ月連続で大放出！　これで台本を読みながらアニメを見たり自分でアフレコしてみる、オツな楽しみが可能に!?



② 2名様

❷『みんな集まれ!ファルコム学園』キャスト寄せ書きサイン色紙

先月号に引き続きキャスト大集合サイン色紙が登場！　ロイド役の柿原徹也さんやコテカナなど個性的なキャストがギュッと詰まったファン必見アイテムだ！

プレゼントの応募方法

こちらのアンケートの回答を下記のアドレスまでメールにてお送りください。
プレゼントの当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

宛先：
件名：vol.37プレゼント係

1：お名前（ペンネーム可）
2：面白い→
　つまらない→
　（記事一覧から1つずつ）
3：①
　②
　（はい・いいえ／作品名）
4：希望するプレゼント番号
5：ご意見・ご感想など

【記事一覧】

1：アニメ『みんな集まれ！ファルコム学園』情報
2：『みんな集まれ！ファルコム学園』
3：よりぬき！『ファルコム学園』
4：啄木鳥しんきイラストメッセージ
5：jdkバンドドラマー・オカジの人生半キャラずらし
6：ティオのファルコムラジオ
　めんどくさいです…でもがんばりますの舞台裏
7：jdkバンドボーカル・コテカナのコテ放題♥
8：FalcomFanArtCollection
9：ファルコムニュース
10：ドラマＣＤシナリオ

アンケート

①マガジンでインタビューしてほしいファルコムのクリエイターは誰ですか？
②日本ファルコムのゲーム作品で1番好きな作品は何ですか？

特設サイトからも応募ができます!
http://www.field-y.co.jp/root/index.php/falmagap

宛先はこちら➡ falmaga@field-y.co.jp　応募締め切り　3月24日

メールにてお送りいただくお名前やご住所等の情報は、賞品の発送のためのみに利用し、その他の目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後３ヶ月を越えて保有することはありません。



月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.37

発行人	田中一寿
発行協力	日本ファルコム株式会社
編集	小渕智幸 大場恵美子
デザイン・DTP	さとうだいち
表紙ロゴデザイン	荻窪裕司（ビーニーズ）
発行	株式会社フィールドワイ 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F TEL 03-5282-2211（代表） http://www.field-y.co.jp/
制作・販売協力	シナノ印刷株式会社